

内閣府「社会的インパクト評価の実践による人材育成・組織運営力強化調査」

# インパクトレポート

2017年3月





## 目 次

第1章	はじめに .....	1
1-1	組織の概要 .....	1
1-2	事業の概要 .....	3
第2章	評価の概要 .....	5
2-1	評価の背景・目的 .....	5
2-2	評価体制 .....	7
2-3	評価対象事業の概要 .....	7
第3章	評価の方法 .....	10
3-1	ロジックモデル .....	10
3-2	インパクトマップ .....	12
3-3	データ収集・分析方法 .....	13
第4章	分析結果の概要 .....	15
4-1	実績データ .....	15
4-2	アンケート調査 .....	20
4-3	家族支援の有無 .....	27
第5章	総括 .....	30
5-1	データ分析考察 .....	30
5-2	本評価振り返りと課題 .....	30
5-3	今後について .....	31
5-4	全体まとめ .....	32



# 第1章 はじめに

## 1-1 組織の概要

【名称】株式会社 K2 インターナショナルジャパン

【所在地】〒235-0005 神奈川県横浜市磯子区東町 9-9

Tel : 045-752-5066 Fax : 045-751-9460

【設立】1996年1月

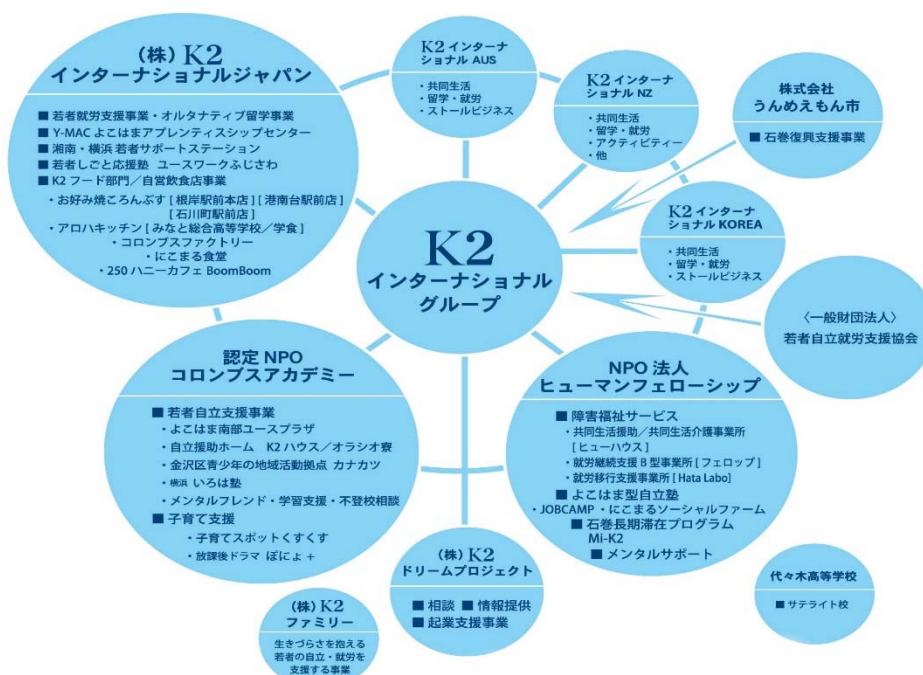
【代表者】代表取締役 金森 京子

K2 インターナショナルグループは 1989 年より不登校・ひきこもり・発達課題など、生きづらさを抱える若者達の自立就労を支援し、共に生きる場を作ってきた民間の団体である。

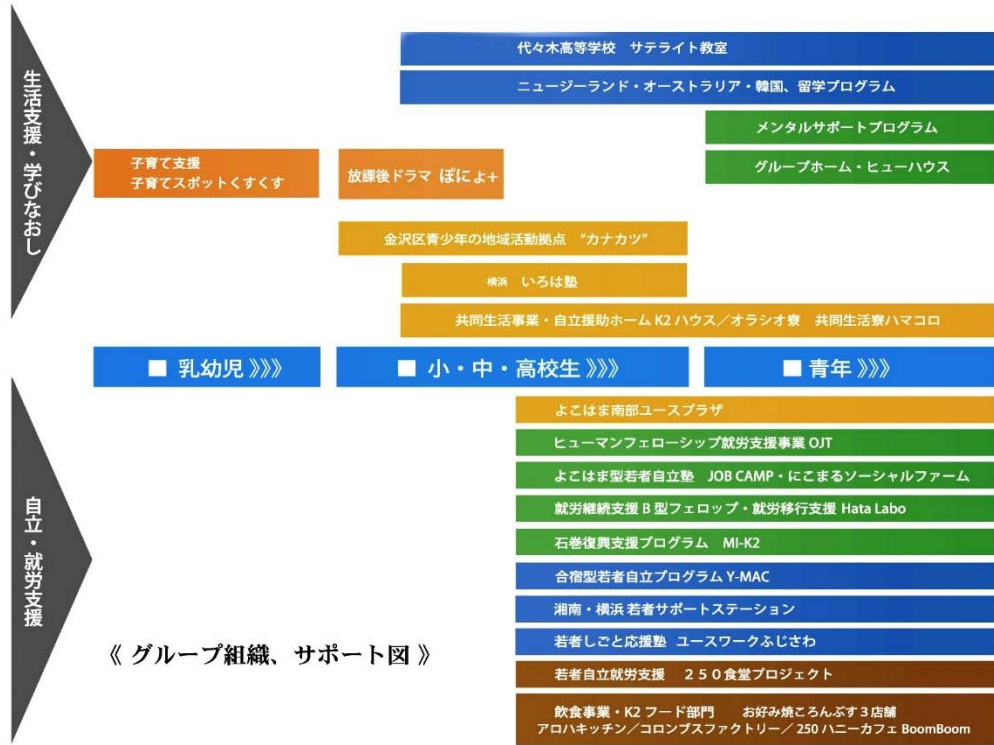
1996 年に株式会社を設立した後も活動の目的に応じて随時法人格を取得していき、現在は 4 つの株式会社、2 つの NPO、一般財団、海外現地法人をグループ組織として運営している。社員数は全体で約 120 名。その約半数が元当事者である事がグループの特徴だと言える。

相談・居場所などといった一時的な支援にとどまらず、生きづらさを抱えるこども・若者を取り巻く家族、環境を含めての生活を支援している。特に 2005 年以降は国や地方自治体との連携による事業が増え、現在は全体の約半数が行政との協働事業であるが、協働事業の範囲では支えきれない個々 160 の課題や長期的なサポートの必要性に対応し、働く場の創出、住まいの提供、地域コミュニティづくり、家族支援等に力を入れて活動をしている。

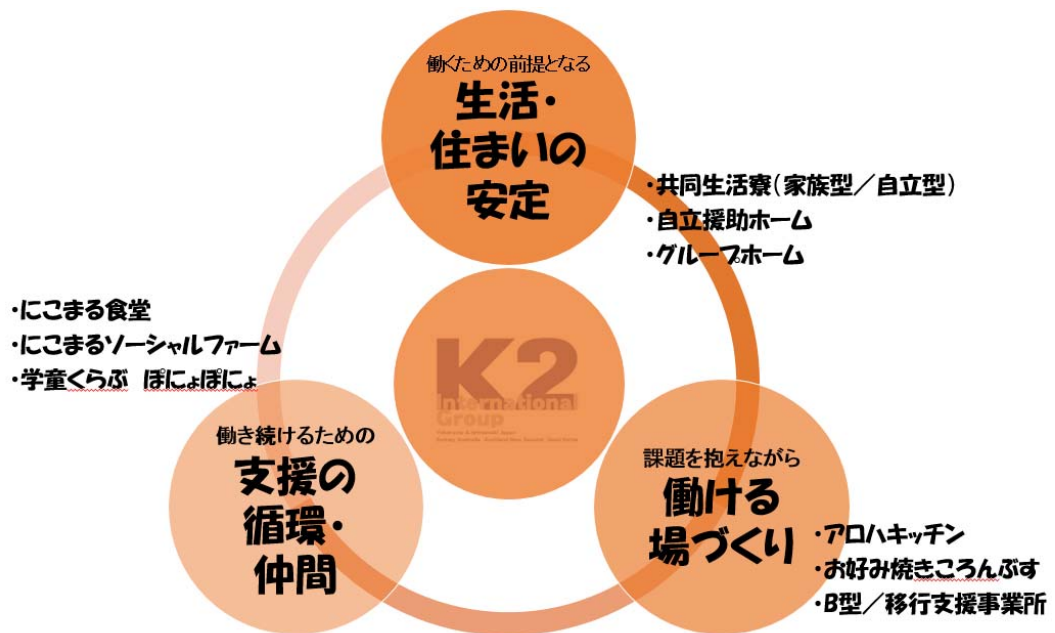
### ◆K2 グループ組織図



◆K2 グループ支援サポート図



◆団体運営方針



## 1-2 事業の概要

K2 では若者の自立にむけて、以下の 3 段階のステップを提案している。

- 第 1 ステージ：共に生活するということ(心理的援助から SST まで)
- 第 2 ステージ：就労訓練(就労トレーニングから自活の場まで)
- 第 3 ステージ：就職(マッチングから自立まで)

その上で、現在の K2 インターナショナルグループの事業を整理すると、次のように分類できる。

### 相談支援

・K2総合相談、湘南・横浜若者サポートステーション、困窮者支援事業、ユースワークふじさわなど

### 居場所・相談室

・よこはま南部ユースプラザ、放課後ドラマぽによ+、子育てスポットくすくす

### 共同生活・生活支援

・K2共同生活、集中訓練プログラム、自立援助ホーム、グループホーム、ステップハウス、海外留学など

### 就労の場づくり

・お好み焼きころんぶす3店、にこまる食堂プロジェクト、パン屋のオヤジ、うんめえもん市、屋台・ケータリング事業、クリーニング事業等

### 家族支援

・K2家族の会、一般財団法人若者自立就労支援、株式会社K2ファミリー等

K2 の支援の特徴は、第 1 に共同生活の場である「寮」を持つことにある。これにより、家族的な関わりをもち、難度の高い若者を受け入れることができると共に、共同生活を通じて、それぞれの個性を理解し、その段階に応じたサポート・ケアを提供することができる。

第 2 に、K2 グループ内に雇用の場を持つことで「中間的就労」の場を提供できるという点があげられる。これにより若者それぞれの得手、不得手に配慮し、能力に関係なくあらゆる若者が働くことを可能とする。

第 3 に、多数の若者を受け入れていることで、多様な事業を展開できている点があげられる。例えば、放課後ドラマぽによ+（自主事業の学童クラブ）では、グループで若者を多く受け入れているため、24 時間の対応が可能となり、地域の保護者にとって安心できるセーフティネットとして機能している。また、K2 の家族支援は、当事者の自立の道筋を整える事だけでなく、家族の抱える問題をトータルでサポートする事で、安定的・持続的な自立・就労につなげる事ができる。





## 第2章 評価の概要

### 2-1 評価の背景・目的

#### ■ 評価目的・背景

▶現在の日本の若者支援政策は、本人支援が中心となっている。

▶当事者である若者の自立に対して、経済的にも心理的にも家族の影響は大きく、本人の意識や行動変化には「家族の理解と支援」が重要であるという認識がある

▶支援対象者のデータを収集し、「家族の支援への関与の有無」による比較を行うことで、K2が独自に行なってきた「家族支援」の効果を検証したい

K2 インターナショナルグループは1989年より不登校・ひきこもり・発達障害など生きづらさを抱える若者達の自立就労を支援し、共に生きる場をつくってきた民間の支援団体である。

活動当初は未成年の子ども達が主な対象者であったことから、保護者の関与は支援開始の為の必須の条件であった。また現在でも、民間団体として自主運営しているものについては、家族の経済的なサポートが必要な為、家族の理解・協力がなければ原則として受ける事はできない。

しかし、2003年に国で「若者自立・挑戦プラン」が発表され、若者自立塾や若者サポートステーションなどの事業が実施されるようになってからは、当事者は家族の経済的な支援がなくとも、無料で相談やセミナー、就労体験などといった支援プログラムを受ける事ができるようになった。K2グループでも国や自治体との協働による事業の展開が始まり、相談者の幅が広がった一方で、当事者である若者が直接相談室に来所し、自身の状況を話す事から支援が始まり、本人の情報のみを頼りに支援が進んでいく事が多く見られる様になっていった。

ほとんどの当事者は成人した若者である為、保護者の関与なく自立支援を受ける事は当然という見方もあるが、実際のところ彼らの多くは家族と同居しており、一人暮らしであったとしても、本人が無業である以上、家族からの経済的支援を受けており、父母兄弟などの家族が及ぼす影響は大きい。

日本の若者政策にはいわゆる「現金給付」（訓練中の生活費や交通費の補助や給付など）というものがほぼ無い為、自立や就労の為にトレーニングを受けるには、当事者の家族、保護者が金銭負担をする事が前提となる。つまり、本人がひきこもり・不就労の状態から抜け出す為の支援はあるが、現実的には家族の関与なしに自立への取り組みはできないというのが、日本の若者支援の現状であるともいえる。

また、単に経済的な援助をされているかどうかという事はもちろん、同居する家族の抱える問題（病気や介護など）や、家族からの過度な干渉やプレッシャーなどが、本人の自立の妨げになっている例も多くあるという、支援現場での実感もある。

こうした背景から、現在本人支援が中心である若者支援政策において、その効果を上げる為の側面的な支援として、「本人を取り巻く家族への支援」が必要である、という実感をもとにした仮説をたて、実際に K2 が独自に行っている、本人とその家族に向けた取り組みに対する評価を実施し、本体事業である若者支援だけではなく、若者支援における家族支援の効果について検証していきたいというのが本調査の目的である。

## ■ステイクホルダー

### 1. 当事者とその家族

- ・ ここでいう当事者とは、不登校や不就労、ひきこもりや発達障害を始めとする、様々な生きづらさを抱える 15 歳から 39 歳の若者を指す。彼らとその家族は K2 が実施する支援プログラムの直接的な対象者であり、本評価においても一次的なステイクホルダーといえる。

### 2. 自治体・行政・地域

- ・ 無業の若者が、支援を受けることで自立に向かい、就業し納税者になっていくことは、地域社会においても有益であり、直接的ではないが自治体、行政、地域も事業のステイクホルダーであると考えられる。また K2 がこれまでに培った支援ノウハウの評価データは、今後の若者支援政策の効果的な設計における、検討材料として提供し得ると考えている。

### 3. 事業主

- ・ 本評価事業においては、K2 の事業に対して出資を検討する事業主に対してアピールできる資料・データを作る事を視野に入れている為、ステイクホルダーに加えた。

他、評価のプロセスの中での学びはもちろん、結果そのものも、その後の事業運営に、法人全体だけではなく個人それぞれが活かすことで、当法人の社員全員が本評価事業のステイクホルダーであると言える。

## 欄外ケース紹介 1. 家庭環境の変化が本人の自立に影響を与えたケース

Y.K さん（男性・初回来所時 23 歳）

・ 父子家庭で、母は病気で他界。不登校を繰り返し高校卒業まで 6 年かかり、サポートステーションへの初来所は担任同行の元だった。コミュニケーション、外出機会、生活リズム、身だしなみ、食事の全てが乱れた状態からの支援開始。

・ サポステのプログラムを利用する中で、少しずつ外出の習慣が身につく、身だしなみに改善がみられるも、なかなか就職には至らず。本人の希望もあり、発達心理検査を受験した結果、発達障害と診断された。

・ 保護者面談を実施し、本人のこれまでの成果をお伝えすると共に、根本の課題についてお伝えし、家庭でのサポートを依頼。また家庭環境を確認すると、母他界後、父はそのダメージで何年も働いていない状況で、家庭は電気やガスが止まる状態もしばしばであったとのことだった。

・ 面談後、本人は発達障害者向けの職業訓練を受講。その間父親が毎日、お弁当をつくって本人を訓練に送り出してくれるようになり、無事に 3 か月の訓練を修了することができた。

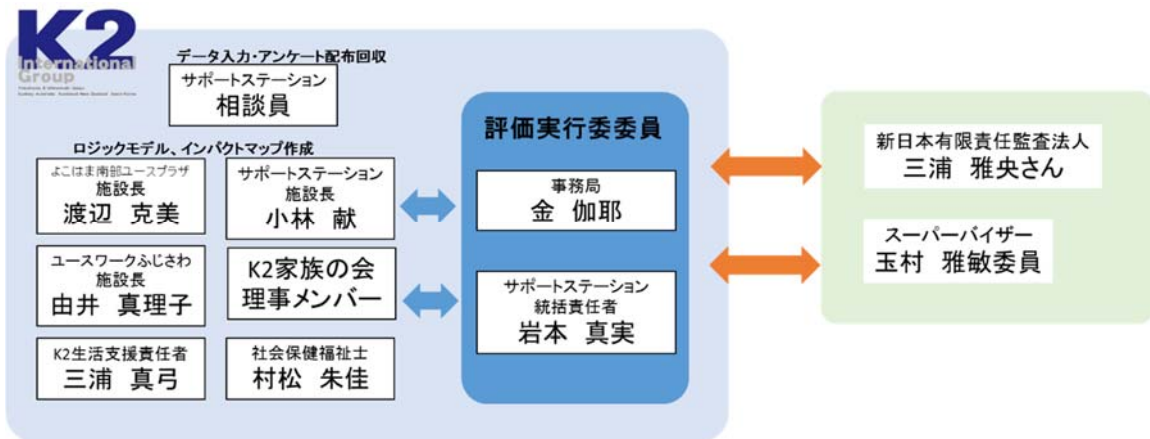
・ その後、本人も父親の応援を理解し、また時期を同じくして父親自身が就職したこともあり、少しずつ生活の質が変化。就職活動に対して前向きになっていった。

・ 訓練修了後も支援を継続し、スーパーの精肉コーナーに採用決定して現在に至る。

## 2-2 評価体制

現在、株式会社 K2 インターナショナルジャパンには、非正規を含めて約 40 名のスタッフが居るが、本評価には湘南・横浜若者サポートステーション統括責任者の岩本と、事務局の金を中心となって取り組み、データ収集にはサポートステーションの相談員がそれぞれ現場で従事した。他、ロジックモデルやアンケート票の内容決定の際には、サポートステーションの相談員だけではなく、法人全体から広くスタッフを巻き込み、それぞれの意見を確認しながら評価を進めた。

また、評価全体を通して、事務局となって頂いた新日本有限責任監査法人の三浦氏、スーパーバイザーの玉村慶應義塾大学教授には、都度ミーティングの機会を持ちながら、評価設計やデータ収集、分析、レポート作成時に伴走者としてご尽力頂いた。



## 2-3 評価対象事業の概要

- ◆事業名：湘南・横浜若者サポートステーション（厚生労働省委託事業）
- ◆運営法人：(株)K2 インターナショナルジャパン
- ◆実施場所：神奈川県鎌倉市小袋谷 1-6-1
- ◆対象エリア：横浜市南西部、藤沢市、鎌倉市、横須賀市、他
- ◆対象者：働くことや自立に不安や悩みを持つ 15 歳～39 歳までの若者



湘南・横浜若者サポートステーションは、厚生労働省が若者支援の実績やノウハウがあるNPO法人、株式会社などに委託し、全国160箇所で実施している「地域若者サポートステーション事業」の一つとして、K2が運営している事業所である。

ここでは働くことに悩みを抱えている15歳～39歳までの若者に対し、キャリアコンサルタントなどによる専門的な相談、コミュニケーション訓練などによるステップアップ、協力企業への就労体験などといった支援を行っている。ここでの利用を契機に、K2本体の事業につながる若者も多い。

## ◆事業内容

### 1. 総合面談

本人からの聞き取り、また家族からの相談を元に現状の把握と共有を行い、必要な支援計画を立てていく。単に就労するのではなく、本人の状況にあった働き方や生き方を見据えた支援の方法を探していく。相談に併せて適性検査などを行う事で客観的な視点も取り入れて計画を立てる。



### 2. セミナー・プログラム

生活リズムが崩れている若者から就職活動の準備ができていない若者まで様々な段階に対応し、生活支援、就労支援、仲間づくりなどのプログラムがある。本人の状況に併せ、面談と平行して実施していく。



### 3. 就労体験

働くことへの不安や経験の無さ、また失敗経験から働くことにネガティブな若者が多い事から、実際の職場での体験を通じて具体的なイメージ、また自信をつける事を目的とする場合と、逆に躓きがどこで起こるのかを判断する事を目的とする場合がある。どちらも相談員との面談と平行して行い、体験によるフィードバックが重要となる。



### 4. 学校連携

高校や大学に在学していても中退の可能性が高い、また卒業後も進路がきまらずに不安を抱える若者が多く居る中、在学中に支援機関が外向き、教員や学校の支援との連携で卒業・中退後も切れ目なく支援する事を目的として、県内の複数の学校と連携してプログラムを実施している。

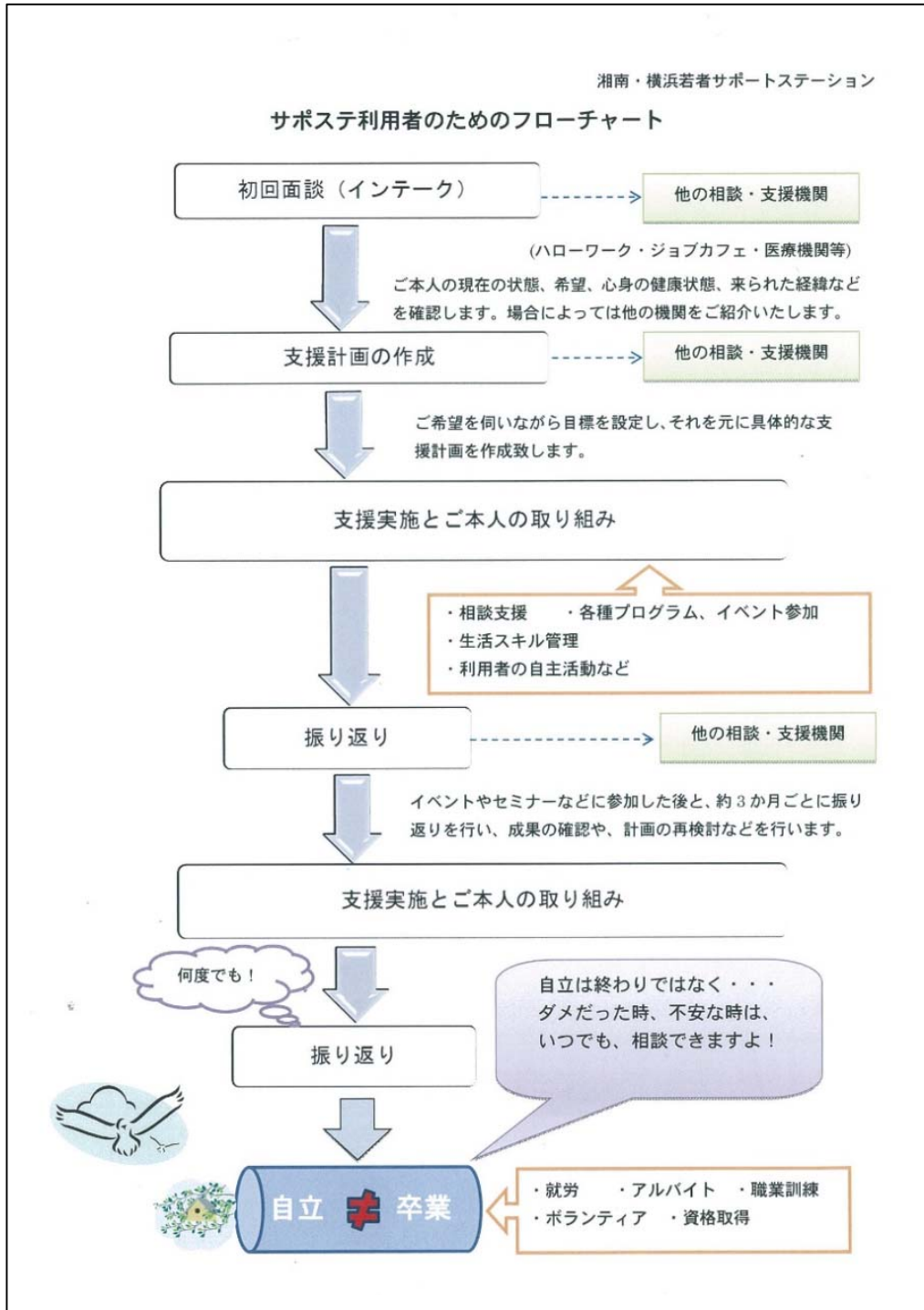




## 5. 家族面談・セミナー

初回面談などで保護者からの問い合わせや相談のほかに、定期的な家族に対する現状の報告や共有、勉強会や相談会などを実施している。

### (参考) サポステ利用者のためのフローチャート



## 第3章 評価の方法

### 3-1 ロジックモデル

ロジックモデルの作成にあたっては、当初アドバイスを頂きながら評価実行委員である金と岩本の2名で進めていたが、一度完成したものに対してうまく評価のイメージが湧かず、別に機会を設けて、法人内で支援現場の中心となるメンバーを集め、新日本監査法人の三浦さんにファシリテーションをお願いして、玉村先生にもお越し頂いた上でワークショップ形式での作成をやり直したという経緯があった。当初作ったものから、流れとして大きく変化したわけではないが、表現方法や文言などへの納得感が増し、その後の評価の実践への影響を見ても必要なプロセスであったと実感している。

#### ◆ロジックモデル作成のためのワークショップの様子



上記の経緯を受けて、最終的に完成したロジックモデルは、若者がK2の支援を受けて辿っていく「変化」を追ったものである。

まず始めに、K2に繋がる前の当事者像の分類を行った。いずれも「K2にくる若者（＝サポートステーションの利用者）は、どんな若者なのか」をスタッフが挙げていき、それらをまとめたものである。具体的には「活動量が低い」「社会性が低い」「不安が強い」「生活の乱れ」「過去の経験・失敗歴（がある）」「障害・病気（の疑い・診断がある）」の6つに分類した。基本的にはほとんどの当事者がこれらのうち複数、あるいは全てに該当すると考えられる。このうち、「障害・病気」に関しては、該当した場合の支援は複雑化し、辿るプロセスも該当しない場合とは異なっていくと考えられるが、本モデルにおいては省略している。

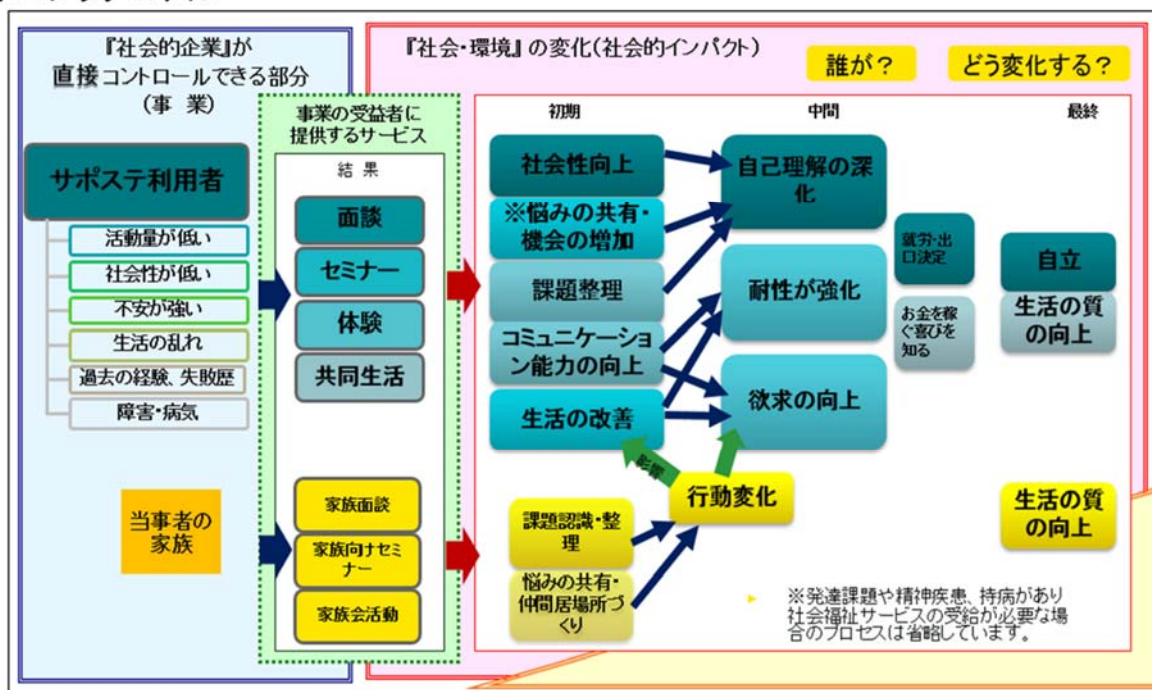
次に、最終インパクトを当事者の「自立」とおいた時に、彼らに現れる変化を挙げていき、プログラムを受けてすぐに現れる「初期」の変化と、最終の自立に至るには必ず辿る必要がある「中

間」の変化と分けて、スタッフの意見をまとめ、分類を行った。

当初は「初期」「中期」と時系列で考えていたが、多様な当事者像にうまくはまらず、「中間」とした事で納得が得られた。当事者によっては、「初期」とほぼ同時に「中間」にあたる変化が現れる場合もあるが、「中間」の変化を辿らずに継続的な「自立」には至らないのではないか、という現場スタッフの意見を反映させた形である。具体的には、現実的で深い「自己理解」と、失敗も含めて自らの状況を認め、他者のアドバイスを受け入れながら前向きに思考行動することのできる「耐性の強化」、更に他者や物事、金銭などへの主体的な興味関心である「欲求の向上」という中間的な変化があって、初めて短期ではなく長期的で継続的な「自立」が叶う、というロジックモデルである。

最後に、こうした当事者が辿る変化に、直接的にも間接的にも「家族」が影響するという仮説の元、家族がK2の家族支援を受けて辿る変化も追った。モデル上では家族の理解が深まり、行動様式が変化することが、本人の変化にも影響を及ぼす事を端的に示したものとなっているが、この点に関しては本調査範囲外の別の場面で、当事者家族へのグループインタビューとスタッフ間でのワークショップを行い、より詳細を追ったものを作成した。(本稿最後に掲載)

### ◆ロジックモデル



### 3-2 インパクトマップ

インパクトマップは、当初ロジックモデルをベースに単純に項目を当てはめていく形で作成したが、その後データの収集方法を定め、「変化」の項目をどのような問いで測定するのかを協議しながら決定していく中で、より細かく詳細になっていった。また同時に、本事業内で測定が困難な変化（例：長期継続的な経済的自立や、生活の質の向上など）をマップ上から落としていき、家族の変化に関しても、今回家族を対象においたデータ収集・調査は行わなかった為、本マップ上からは外している。

なお、「指標」の項目における【問〇】という数字は実際に行ったアンケート調査票の問番号である。

#### ◆インパクトマップ

結果・成果の別	ステイクホルダー 【誰が】	評価の問い 【どう変化する】	測定方法	指標
①結果、②初期成果、 ③中期成果、④最終 成果	誰が変化するのか？ 誰に影響を与えるのか？	どのような変化をもたらすのか？ どのような変化をもたらしたいのか？	どこで、どうやって情報を収集するか？	どうやって測定するか？
初期成果	支援対象者	社会性が向上する	クラウド入力	挨拶 敬語の使用 適切な報連相 適切な身だしなみ
		悩みの共有ができ、その機会が増加する	支援対象者アンケート	【問1】悩みを相談できる相手の有無 【問2】対人関係の不安 【問3】働くことへの不安
		自身の課題が整理できる	クラウド入力 支援対象者アンケート	自己理解 【問14】自己理解
		コミュニケーション能力が向上する	クラウド入力	他者との会話の機会 他者への興味 表情の変化
		生活の改善	クラウド入力 支援対象者アンケート	外出頻度 外出範囲 生活リズムの安定 食事リズム・バランスの安定 運動量の安定 家族関係の良好き 健康状態の良好き 【問4】外出機会の頻度 【問5】外出範囲 【問18】家族からの理解はあるか 【問19】家族からの支援はあるか
結果・成果の別	ステイクホルダー 【誰が】	評価の問い 【どう変化する】	測定方法	指標
①結果、②初期成果、 ③中期成果、④最終 成果	誰が変化するのか？ 誰に影響を与えるのか？	どのような変化をもたらすのか？ どのような変化をもたらしたいのか？	どこで、どうやって情報を収集するか？ (アンケートの場合は設問内容 案も)	どうやって測定するか？
中間成果	支援対象者	自己理解が深まる	クラウド入力 支援対象者アンケート	自己肯定感 自己理解 就業知識 自立意欲 【問13】自己肯定感 【問14】自己理解 【問15】就業知識 【問17】自立意欲
		耐性が強まる	支援対象者アンケート	【問10】人のアドバイスを受容 【問6】現状の自分に対する満足度
		欲求が向上する	支援対象者アンケート	【問11】挑戦意欲 【問7】他人、異性への興味 【問8】物欲・金銭欲など前向きな欲求
最終成果	支援対象者	生活の質が向上する	支援対象者へのアンケート 面談実績	【問21】生活満足度
		社会的・経済的に自立する (サポート付き含む)	支援対象者へのアンケート 面談実績	社会的・経済的自立の状況



### 3-3 データ収集・分析方法

本評価事業では、次に示す2つの方法でデータ収集と分析を行った。

#### 1. 利用者活動実績データ

対象者	27年度サポステ新規登録者で、3ヶ月以上支援を継続している当事者141名
実施期間	平成28年10月
調査項目 概要	ロジックモデルの初期～中間アウトカムに設定した各項目について第三者からの視点で整理 ①属性情報（性別、生年月日、障害者手帳の有無等） ②インテーク時情報（外出機会、生活リズム、家族関係、社会スキル等） ③経過記録情報（インテーク時と同様の項目）
備考	セールフォースのクラウドシステムに支援者が情報を入力

#### 2. 利用者向けアンケート ▶各設問、「初回来所時」と「現在」の2時点で確認。

対象者	上記対象者141名に配布し、回収できた68名
実施期間	平成28年11月
調査項目 概要	ロジックモデルの初期～中間アウトカムに設定した各項目について、本人主観でしか分かり得ない成果を中心に設問を設定。全21問から構成（相談の対象者、対人関係不安、外出頻度、身だしなみ、自己肯定感、就きたい職業イメージの有無等）
備考	アンケート調査票は支援者から手渡しで配布・回収 利用者活動実績データと紐付を実施

このうち、1の利用者活動実績データに関しては、既に法人内で活用を進めてきた「Salesforce」というクラウドの利用者管理システムを利用し、対象となる利用者それぞれに対して、ロジックモデルにおいた変化の項目を相談者が評価し、数値を入力したものをExcelにエクスポートする形をとった。

(参考) Salesforce 入力画面

2のアンケート調査は、設問の文言や選択肢の置き方を内部で十分に協議した上で、アドバイスを頂き新たに用紙を作成。無記名としたが、実績データとの紐付を行うため、原則として直接手渡し、直接回収という手法をとった結果、回収率は約48%となった。

(参考) アンケート調査票 (一部抜粋) ※全文本稿最終部に掲載

**利用者アンケート**

はじめに

- このアンケート調査は、K2グループの今後の支援プログラムを改善するために、利用者の現状を把握することを目的としています。回答は初回来所時(登録時)と現在の状況を伺う構成になっています。初回来所時を振り返っていただくことで、現在の状況についてもご回答ください。
- なお、調査の結果は全て統計的に処理しますので、個々の回答者がどのように回答したのかは明らかになることはありません。
- 質問事項や選択肢について不明な点があれば、K2事務局(045-750-0039)、またはご登録済みのK2の事業所にお問い合わせください。
- 全ての質問に回答した後、11月18日(金)までに配布元の事業所までご提出ください。
- ご協力いただきますよう、よろしくお願ひ申し上げます。

1. あなたが、悩み相談する人はどなたですか。該当する方全てにチェックしてください。

(初回来所時)

父親、 母親、 兄弟、 おじ、 おば、 祖父、 祖母  
 友人、 友人(ネット上)、 知人、 支援者、 医者、 専門家、 その他

(現在)

父親、 母親、 兄弟、 おじ、 おば、 祖父、 祖母  
 友人、 友人(ネット上)、 知人、 支援者、 医者、 専門家、 その他

2. 対人関係について不安はありますか。該当する番号に○をしてください。

(初回来所時)

1 全くない	2 あまりない	3 どちらでもない	4 ある程度ある	5 とてもある	9 わからない

(現在)

1 全くない	2 あまりない	3 どちらでもない	4 ある程度ある	5 とてもある	9 わからない

3. 働くことに不安はありますか。該当するものに○をしてください。

(初回来所時)

1 全くない	2 あまりない	3 どちらでもない	4 ある程度ある	5 とてもある	9 わからない

(現在)

1 全くない	2 あまりない	3 どちらでもない	4 ある程度ある	5 とてもある	9 わからない

4. 外出する頻度はどの程度ありますか。該当するものに○をしてください。

(初回来所時)

1 ほとんど外出しない	2 週1回未満	3 週1回程度	4 週に2~3回程度	5 ほぼ毎日	9 わからない

(現在)

1 ほとんど外出しない	2 週1回未満	3 週1回程度	4 週に2~3回程度	5 ほぼ毎日	9 わからない

いずれの調査も、「初回来所時」と「現在（調査時）」の2時点で各項目を評価し、before-after の変化を確認できるようにした。また、アンケート調査の回答者に関してはSalesforce上に支援実績も入っていたことから、支援に対する「家族の関与」の有無も紐付けて確認する事とした。

なお、活動実績データに関しては、もともと「経過記録」として、3ヶ月毎に、設定した各項目を相談員が評価するという業務フローがあり、これまでもクラウド上にデータを積み重ねてきたが、今回の調査をきっかけに、その評価項目（＝相談員が見るべきポイント）を再検討できた事は、本調査の成果の一つであると言える。ただし、調査結果を受けて改めて内容を精査する必要はあると考えている。

## 第4章 分析結果の概要

### 4-1 実績データ

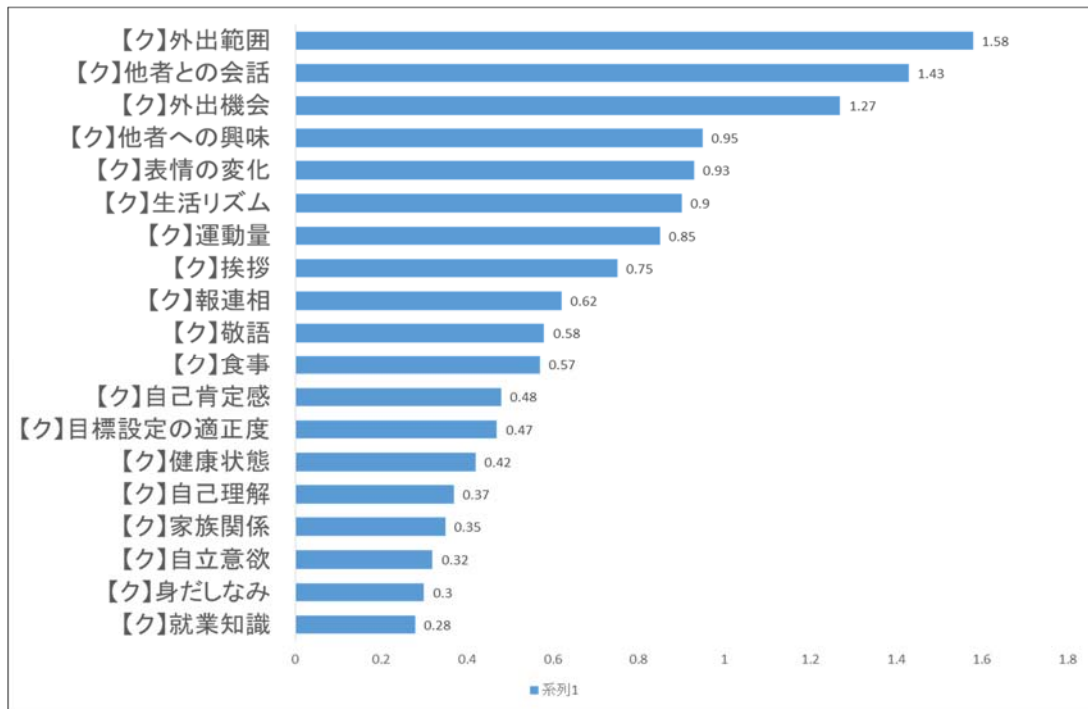
相談員が入力した、実績データを分析した結果、初回来所時（＝インテーク時）と現在（経過記録時）の各項目の平均値を比較した所、ほぼ全ての項目で改善傾向が確認でき、検定でも有意差が認められた。

#### ◆実績データ 平均値（Before-After 分析）

質問項目	平均		平均値の差
	初回来所時	現在	
外出機会は持っているか？	2.73	3.65	0.92***
外出範囲は広がっているか？	2.36	3.52	1.16***
生活リズムは安定しているか？	2.71	3.43	0.72***
食事リズム・バランスは安定しているか？	2.97	3.43	0.45***
運動量は安定しているか？	2.50	3.26	0.76***
家族関係は良好か？	3.00	3.32	0.32***
健康状態は良好か？	2.99	3.33	0.34***
他者との会話の機会はあるか？	2.32	3.34	1.02***
他者への興味はあるか？	2.49	3.23	0.74***
表情の変化はあるか？	2.69	3.42	0.74***
挨拶はできるか？	3.11	3.72	0.61***
敬語は使えるか？	3.21	3.64	0.43***
報連相は適切にできるか？	2.77	3.26	0.49***
身だしなみは適切か？	3.43	3.65	0.23***
自己肯定感	2.11	2.53	0.43***
自己理解の度合い	2.10	2.44	0.34***
目標設定の適正度	2.42	2.61	0.19**
就業知識	2.24	2.49	0.26***
自立意欲	2.55	2.80	0.25**
求職活動の進行度	2.00	2.71	0.71***

5段階リッカートの平均値を算出。対応のあるサンプルのt検定(両側)を行い、p<.001\*\*\*、p<.01\*\*、p<.05\*とした。

◆実績データの初回～現在の改善幅の平均値一覧



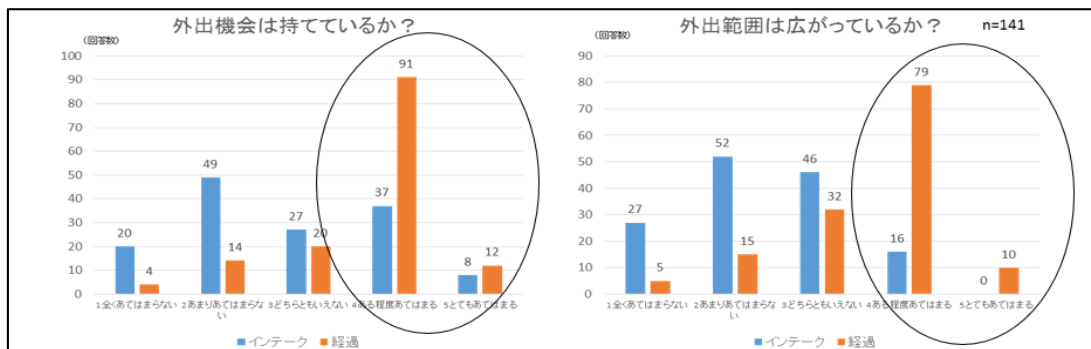
相談員視点である第三者評価のクラウドデータに関しては、大きく改善が見えるのは「支援機関に繋がり」、「ひきこもり状態から変化」した事による一次的な変化が多いとみられる。

以下、各項目について簡単にコメント加えながら確認していく。

なお、グラフは共通して青が初回来所（インテーク）時、オレンジが現在（経過記録時）となる。

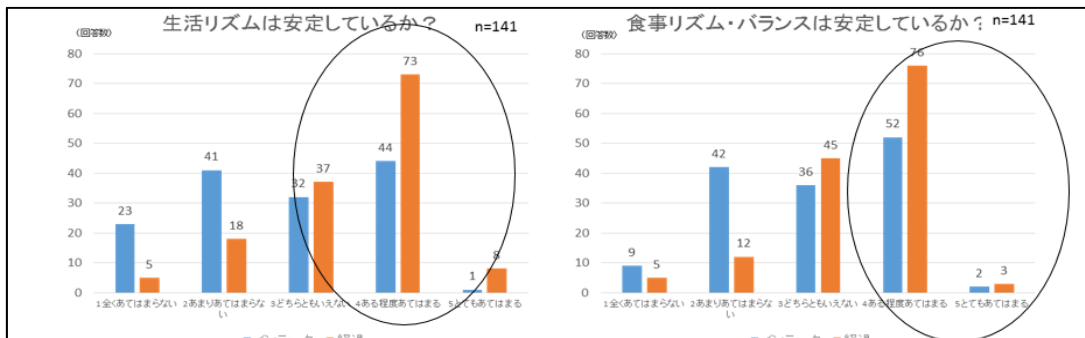
・外出機会／外出範囲

▶外出機会は増加し、範囲も広がっている。



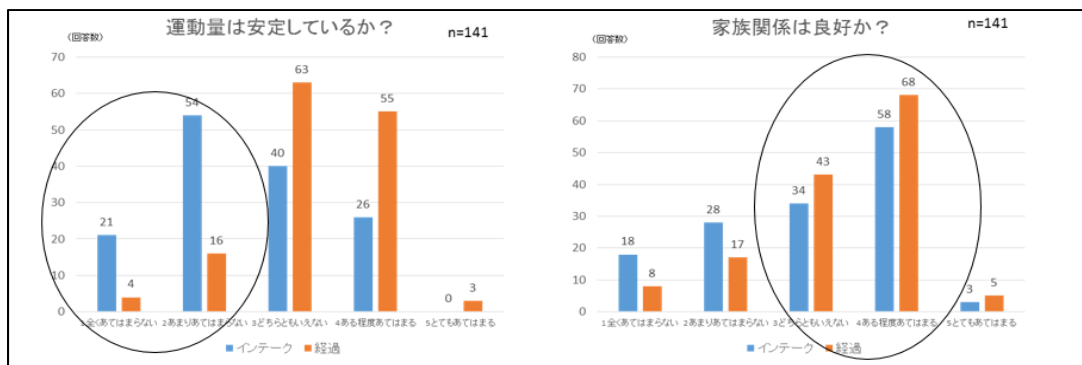
・生活リズム／食事リズム・バランス

▶いずれも改善している。



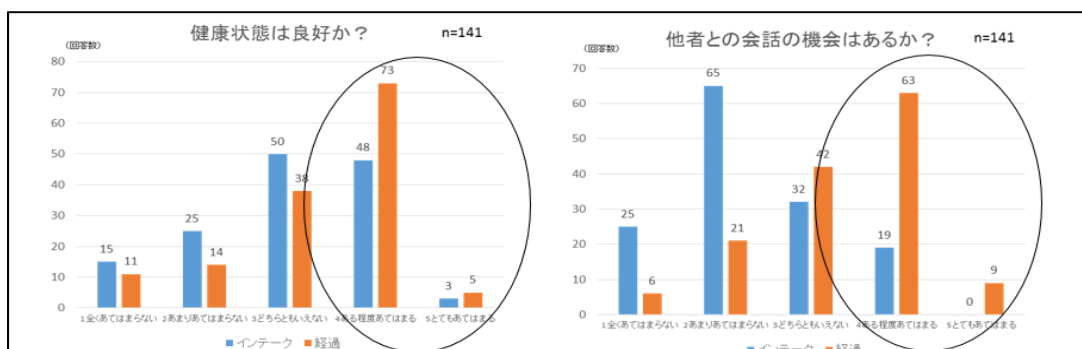
・運動量／家族関係

▶運動量は明らかに増加している。家族関係に関しては大きな改善はなし。



・健康状態／他者との会話の機会

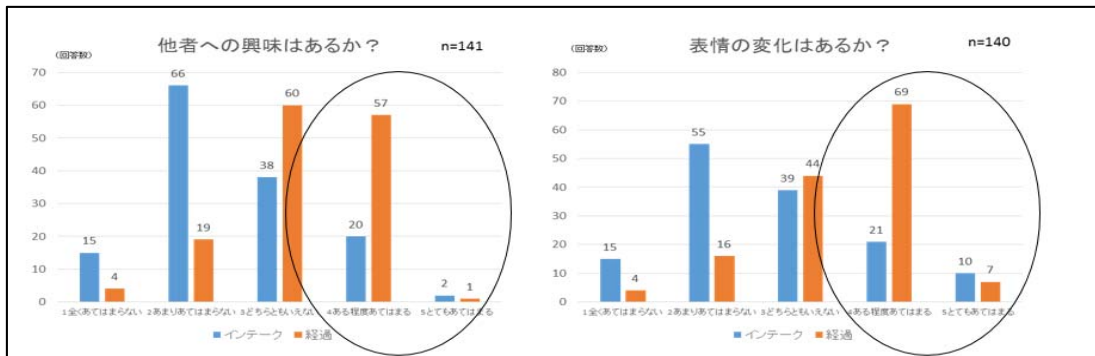
▶他者との会話の機会は明確に増加。



上記4項目に関しては特に、プログラムの効果というよりは、支援機関につながる(=ひきこもりの解消)によって起こる変化、改善だと考えられる。

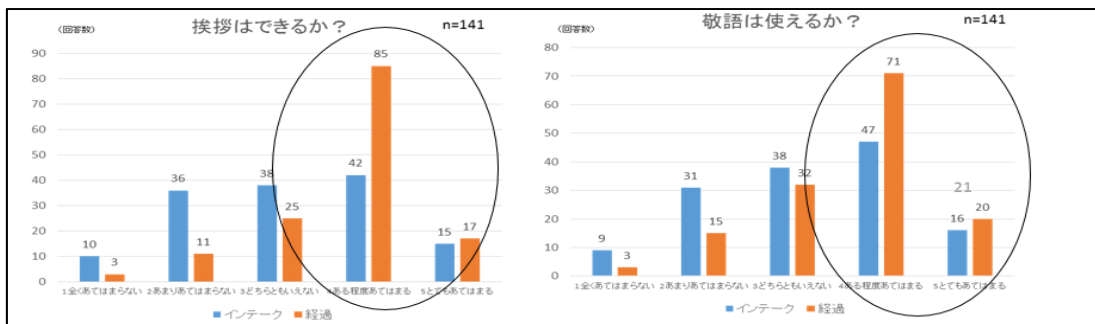
## ・他者への興味／表情の変化

▶他者への興味（＝外向的思考）は向上している。表情の変化も見える。



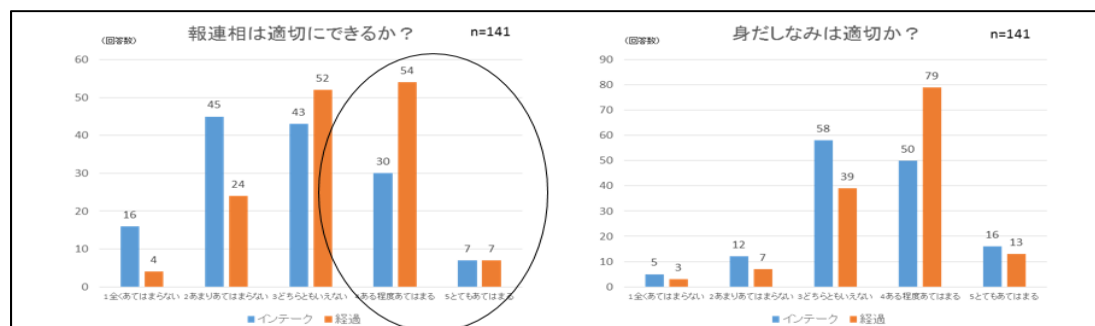
## ・挨拶／敬語

▶敬語よりも、挨拶ができるようになってきているという変化の方が大きい。



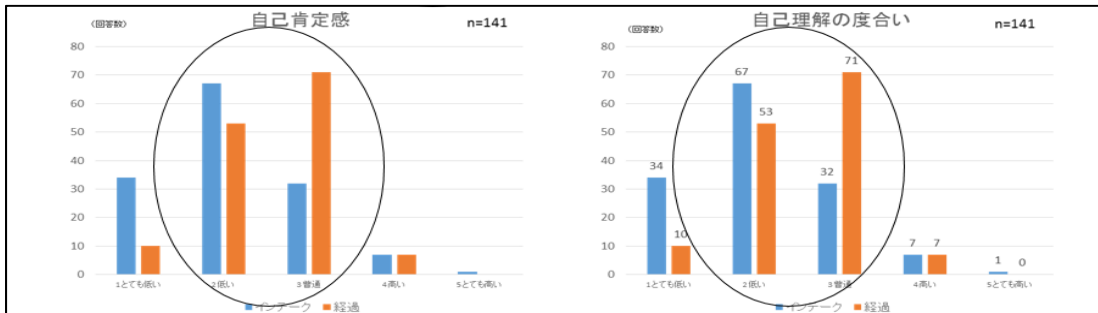
## ・報連相／身だしなみ

▶報連相は改善。

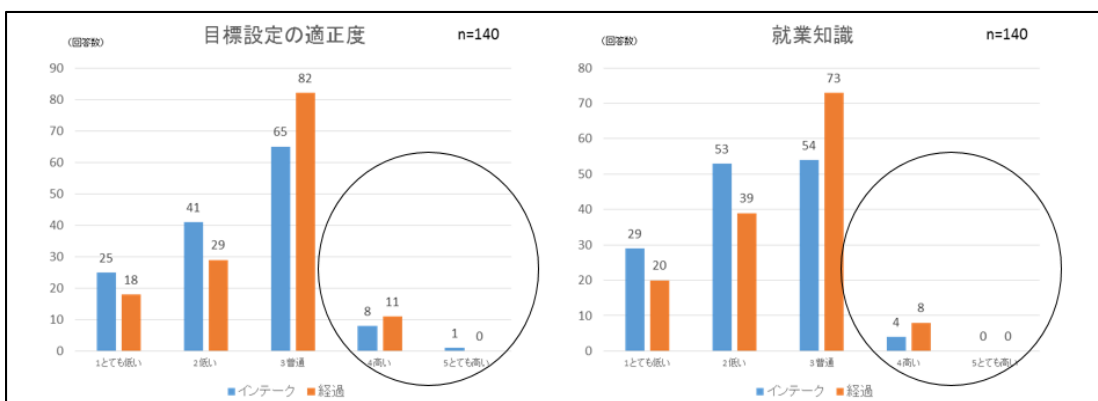


これらは、社会スキルの向上よりも、「定期面談の設定」による効果ではないかと考えられる。

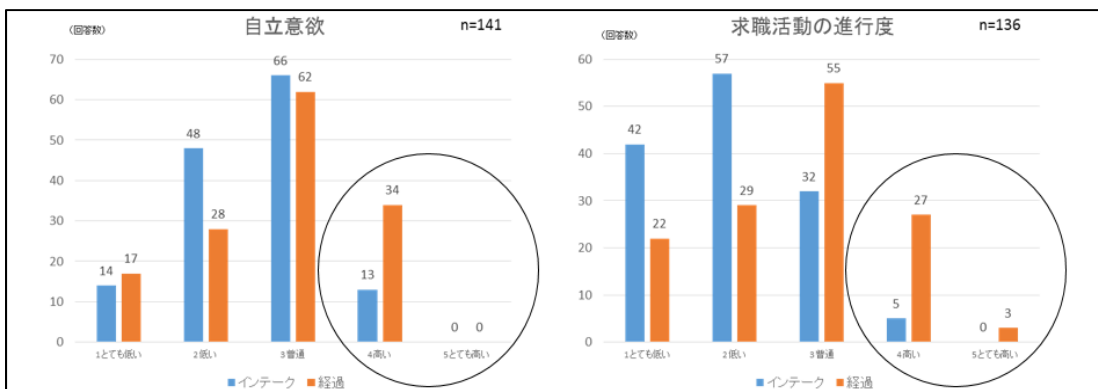
・ 自己肯定感／自己理解



・ 目標設定の適正度／就業知識



・ 自立意欲／求職活動の進行度



いずれも改善傾向ではあるが、大きくは無い。

## 4-2 アンケート調査

実績データを抽出した 141 名に対し実施したアンケート調査は、協議の結果無記名としたが、実績データと紐付ける為、相談員による直接配布、回収を行った。

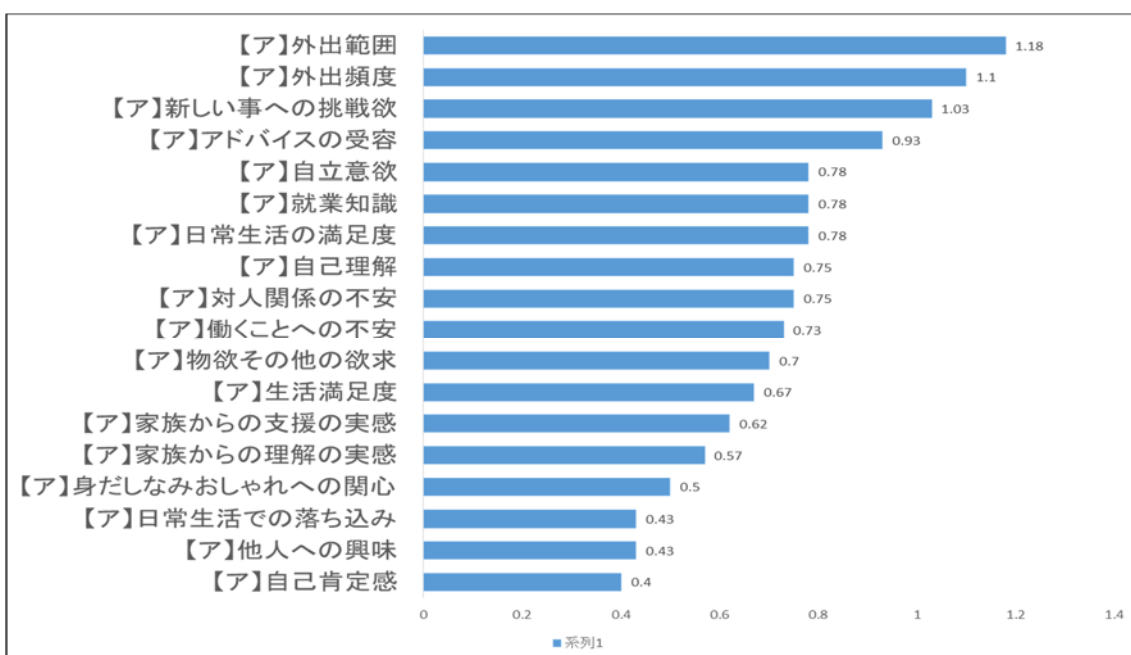
回収した 68 名分の初回来所時（＝インテーク時）と現在（経過記録時）の各項目の平均値を比較した所ほぼ全ての項目で改善傾向が確認でき、検定でも有意差が認められた。

### ◆アンケートデータ 平均値 (Before-After 分析)

番号	質問文	平均点		平均値の差	
		インテーク時	経過時		
問2	対人関係について不安はありますか。	4.20	3.42	-0.78	***
問3	働くことに不安はありますか。	4.44	3.59	-0.85	***
問4	外出する頻度はどの程度ありますか。	3.52	4.57	1.05	***
問5	日常生活において、外出範囲は広がったと思いますか。	2.52	3.87	1.35	***
問6	日常生活は楽しいと思いますか。	2.53	3.45	0.92	***
問7	心を許せる友人が欲しいと思いますか。	3.41	3.78	0.37	***
問8	行きたいところや、やりたいこと、欲しいものなどありますか。	3.24	3.95	0.71	***
問9	あなたは身だしなみ・おしゃれに関心がありますか。	2.63	3.25	0.62	***
問10	支援者や周りの人のアドバイスに対して前向きに受け入れようと思いますか。	3.43	4.16	0.74	***
問11	新しいことに挑戦したいと思いますか。	2.70	3.80	1.10	***
問12	日常で落ち込むことがありますか。	4.13	3.69	-0.45	***
問13	自分のことが好きですか。	2.28	2.70	0.42	***
問14	今の自分の得意・不得意を理解していると思いますか。	3.14	3.72	0.59	**
問15	自分が就きたい仕事についてのイメージはありますか。	2.46	3.44	0.98	***
問16	自分が就きたい仕事に向けて必要なことを理解していると思いますか。	3.38	3.65	0.28	
問17	自分が就きたい仕事に向けて行動していますか。	2.43	3.71	1.29	***
問18	家族はあなたのことを理解していると思いますか。	3.15	3.63	0.48	***
問19	あなたは家族に支援されていると思いますか。	3.68	4.16	0.48	***
問20	ご両親とあなたの関係は、良いと思いますか。	3.09	3.63	0.53	***
問21	あなたは生活に満足していますか。	2.20	2.90	0.70	***

5段階リッカートの平均値を算出。対応のあるサンプルのt検定(両側)を行い、 $p<.001$ \*\*\*、 $p<.01$ \*\*、 $p<.05$ \*とした。

### ◆アンケートデータの初回～現在の改善幅の平均値一覧





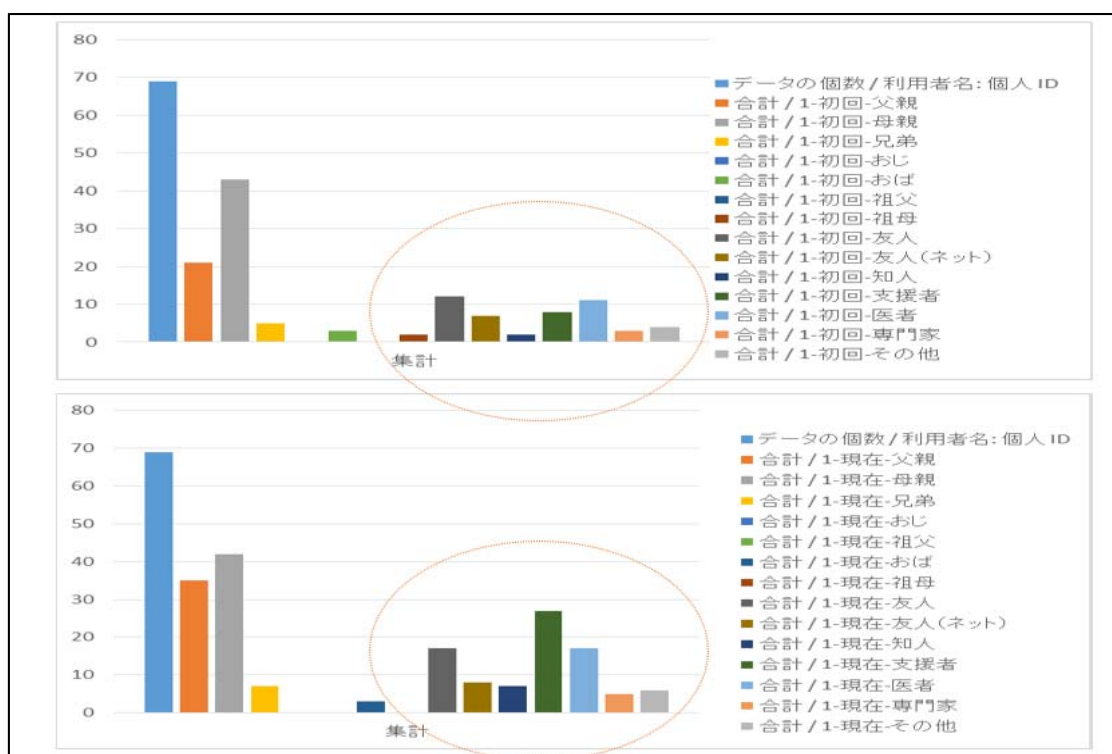
相談員による第三者評価である実績データと比べ、本人の実感が反映されるアンケート調査では、「挑戦欲」や「アドバイスの受容」や「日常生活の満足度」など、能動的な行動による変化が大きく見られる事がわかる。

以下、各項目について簡単にコメントを加えながら確認していく。

グラフは問一を除き、共通して青が初回来所（インテーク）時、オレンジが現在（経過記録時）となる。

### ・問1 あなたが悩みを相談する人はどなたですか

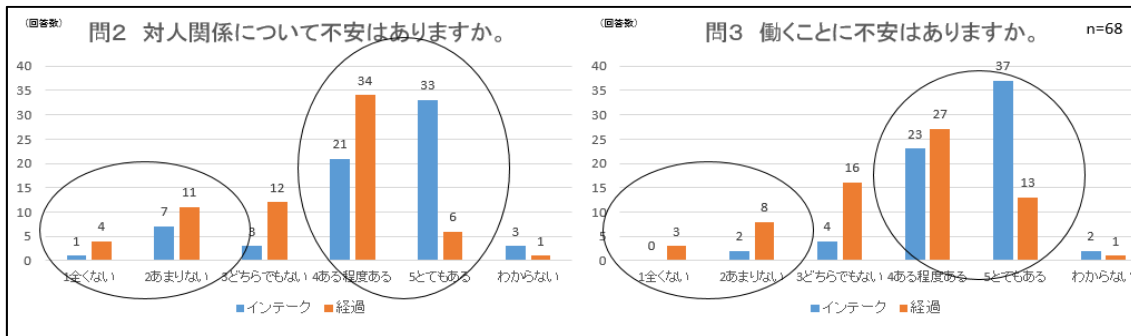
▶相談対象の範囲が家族以外にも広がりを見せていることが判る



・ 問2 対人関係について不安はありますか

・ 問3 働くことに不安はありますか

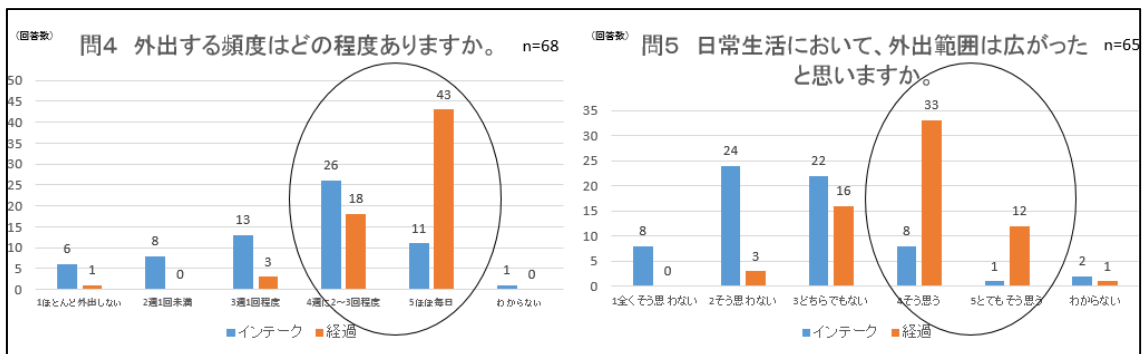
▶改善傾向だが、「対人関係」「働くこと」に対する【不安】が一定以上残る層が多くいる事が判る。



・ 問4 外出する機会はどの程度ありますか

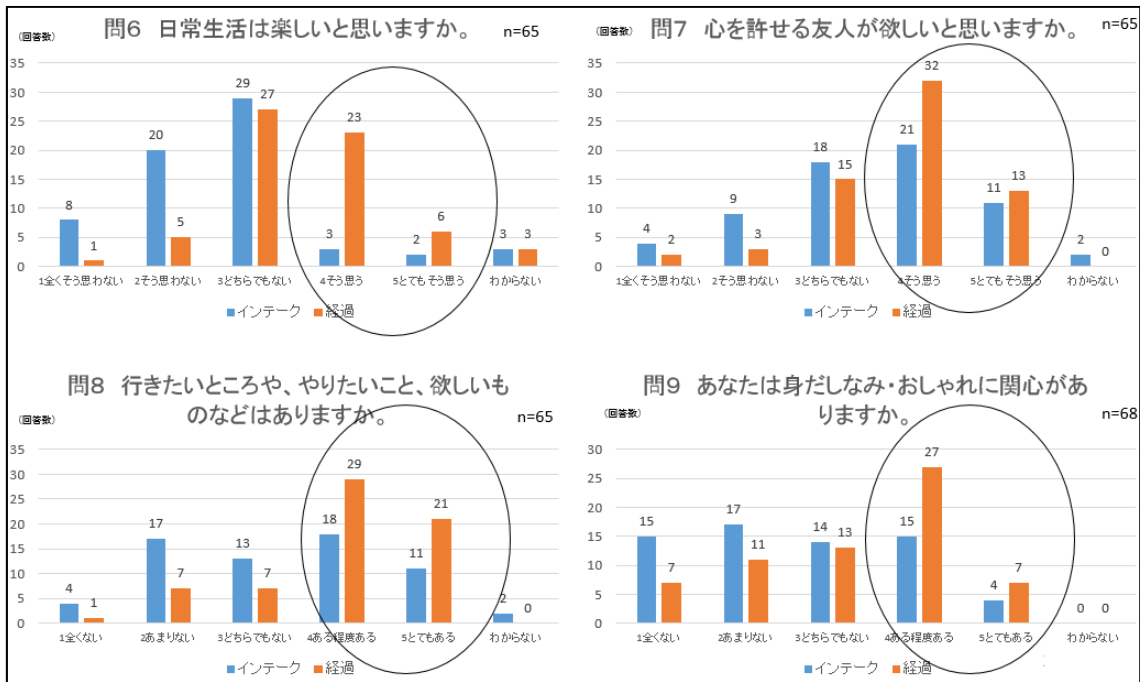
・ 問5 日常生活において、外出範囲は広がったと思いますか

▶外出範囲、機会に関してはクラウド評価同様、改善傾向が強い。



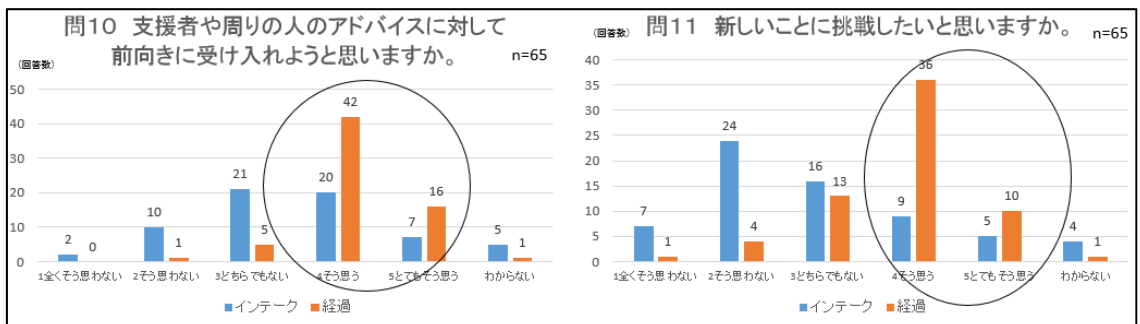
- ・ 問6 日常生活は楽しいと思えますか
- ・ 問7 心を許せる友人が欲しいと思えますか
- ・ 問8 行きたいところや、やりたいこと、欲しいものなどがありますか
- ・ 問9 あなたは身だしなみ・おしゃれに関心がありますか

▶いずれも改善傾向。ロジックモデルにおける中間アウトカムの「欲求の向上」にあたる部分。



- ・ 問10 支援者や周りの人のアドバイスに対して前向きに受け入れようと思えますか
- ・ 問11 新しいことに挑戦したいと思えますか

▶アドバイスの受け入れ、新しいことへの挑戦意欲は改善。

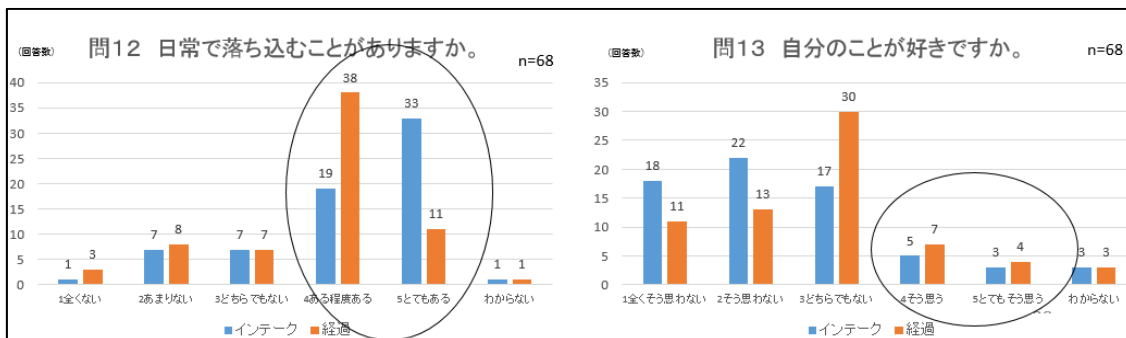


・ 問 12 日常で落ち込むことがありますか

・ 問 13 自分のことが好きですか

▶「日常で落ち込むこと」に関しては依然として「ある程度ある」「とてもある」の割合が大きい。

▶「自己肯定感」にあたる「自分のことが好きですか」に関しては低い平均値のまま推移。



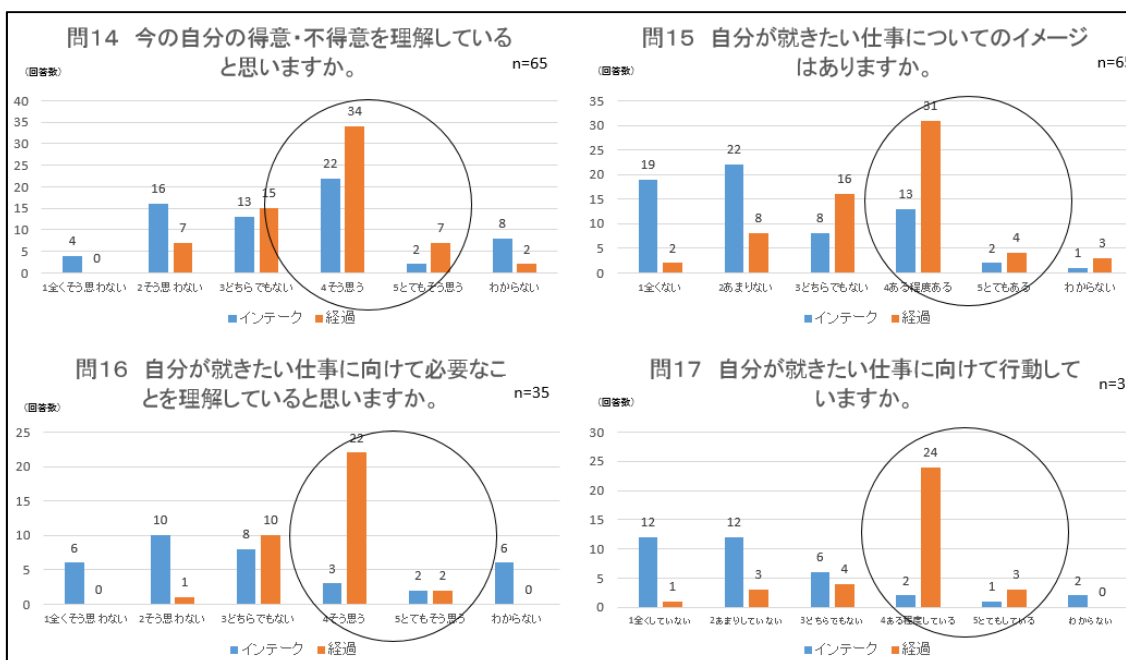
・ 問 14 今の自分の得意不得意を理解していると思いますか

・ 問 15 自分が就きたい仕事についてのイメージはありますか

・ 問 16 自分が就きたい仕事に向けて必要な事を理解していると思いますか

・ 問 17 自分が就きたい仕事に向けて行動していますか

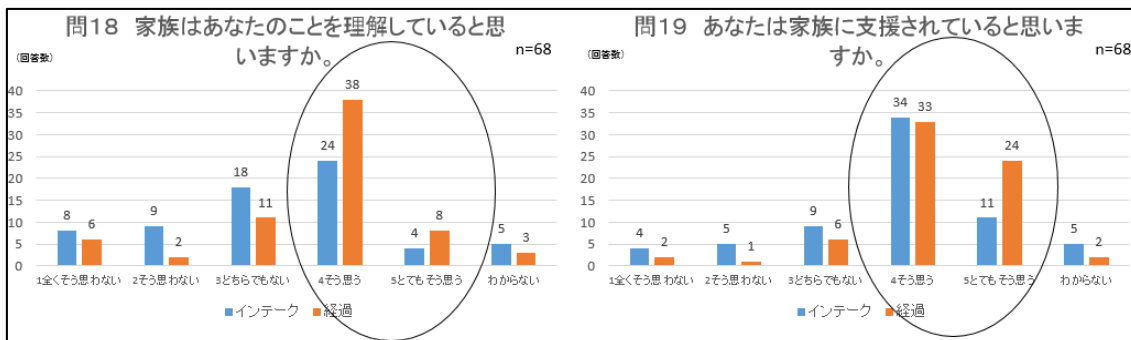
▶就業知識、具体的な行動、共に改善していると言える。



・ 問 18 家族はあなたのことを理解していると思いますか

・ 問 19 あなたは家族に支援されていると思いますか

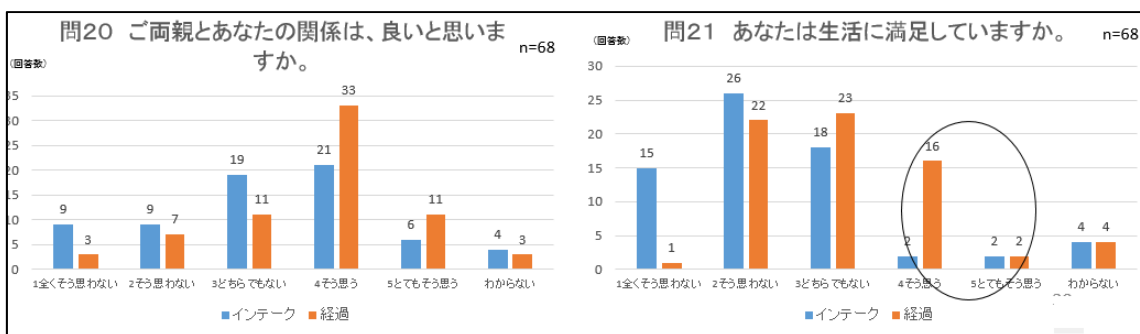
▶いずれも改善傾向だが、家族からの「理解」よりも「支援」の方が本人の実感の度合いが強く、変化率は「理解」の方が大きい



・ 問 20 ご両親とあなたの関係は良いと思いますか

・ 問 21 あなたは生活に満足していますか

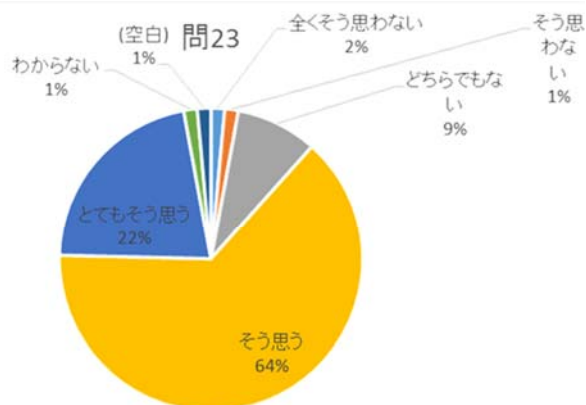
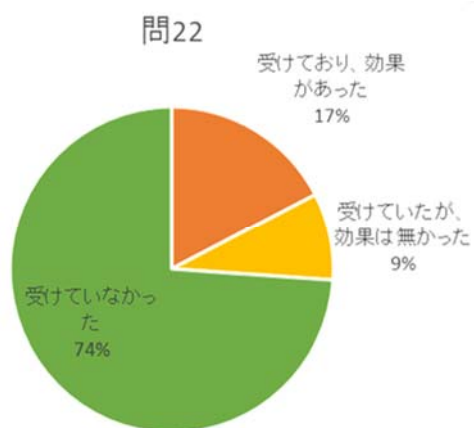
▶両親との関係は「そう思う」「とてもそう思う」の割合が増加。生活満足度は大きく向上している。



・ 問 22 K2 の支援プログラム利用中、他の団体・機関などの類似の支援を受けていましたか

・ 問 23 問 1～21 での変化は、K2 の支援を受けたことがきっかけだと思えますか？

▶死荷重・寄与度にあたる部分。

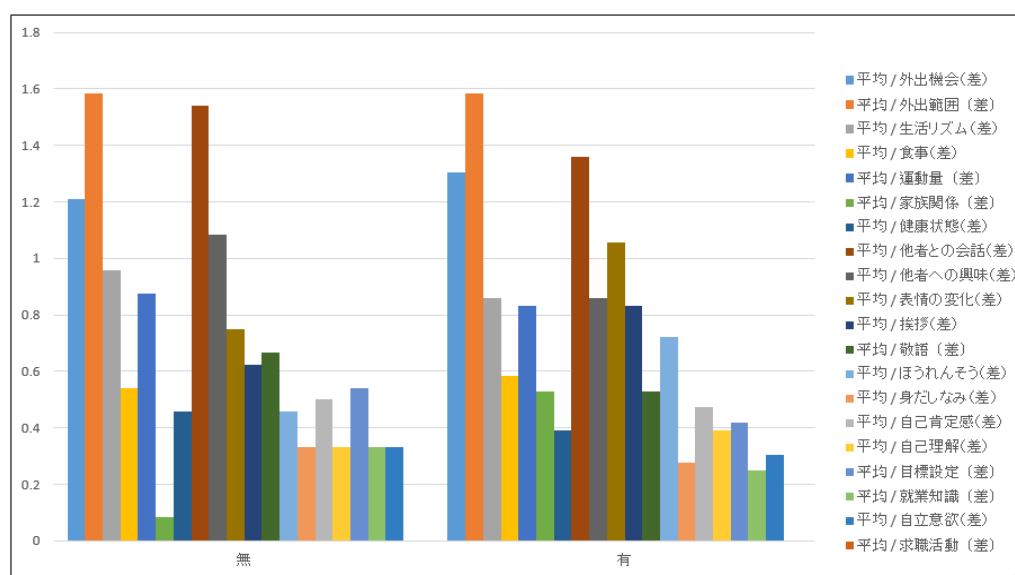


### 4-3 家族支援の有無

相談実績、アンケート共にデータの揃った 68 名に対し、各項目において家族支援の有無による with-without の比較を行った。ただし、K2 が実施している家族支援は面談、セミナー、体験、ピアカウンセリングなど多岐に渡るが、本調査においては「家族面談の有無」による比較のみにとどまっている。

これを見ると、第三者評価となる実績データの分析では、家族支援による大きな違いはなく、本人の実感からなるアンケート調査の結果には、家族支援の有無による差異が見えた。

各項目の改善幅の比較(家族支援有無)～クラウド～

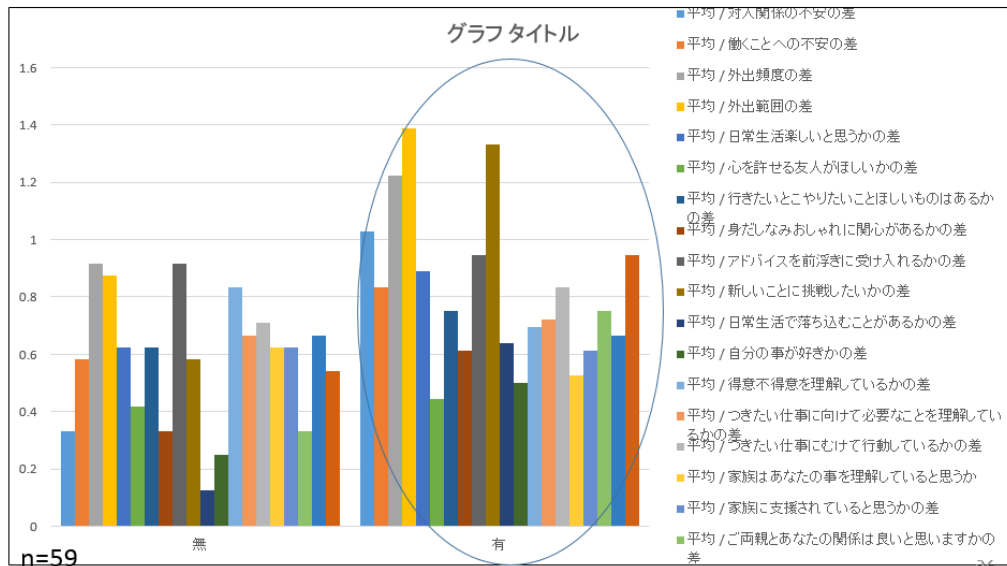


n=59

▶各項目で差異があるが、全体では、大きな差は見られない。

▶検定により有意差が認められたのは「家族関係は良好か」という設問

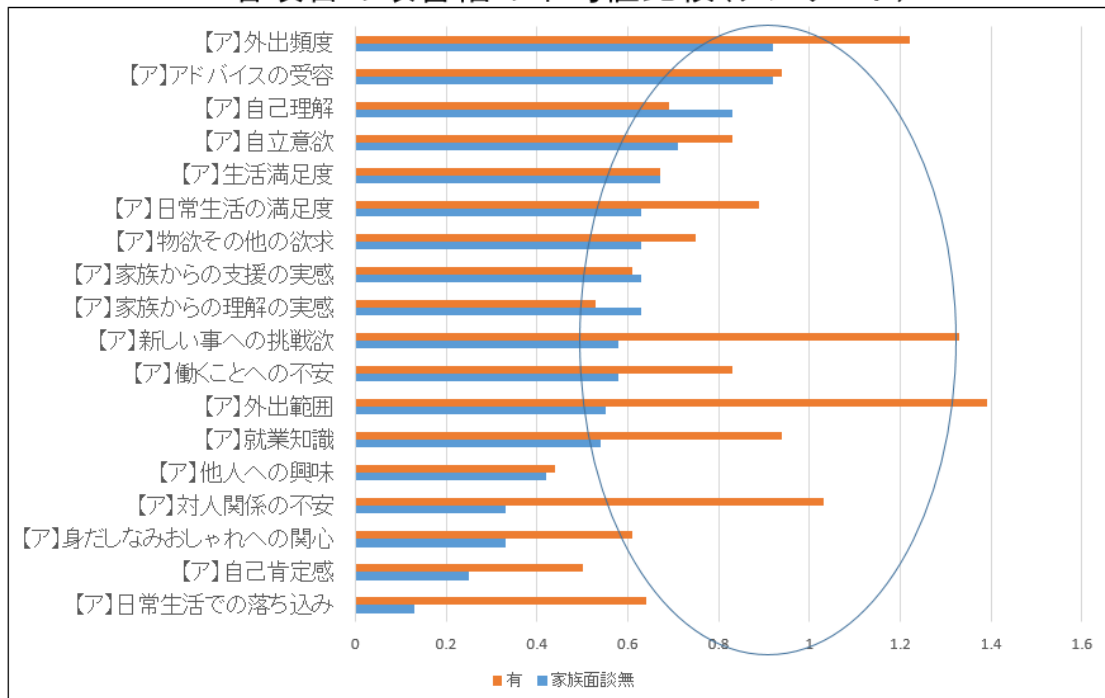
## 各項目の改善幅の比較(家族支援有無)～アンケート～



▶全体的に、「家族面談有」の層の方が、改善の幅が大きいといえる。

次に示すのは、家族支援無（青）と家族支援有（オレンジ）の改善幅の比較である。

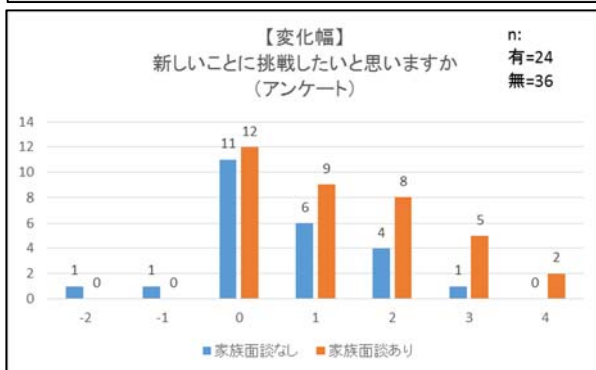
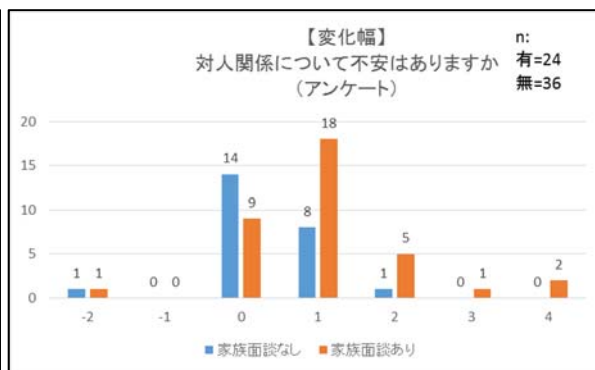
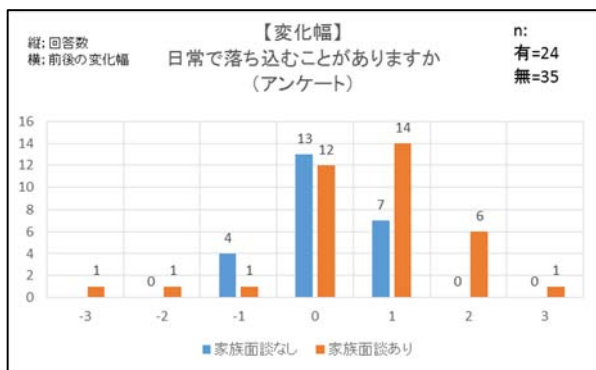
## 各項目の改善幅の平均値比較(アンケート)



家族支援の有無によって、改善幅に差が現れる項目が判るが、差が大きく現れる外出頻度や範囲、生活満足度などは、家族の理解による本人の活動意欲が向上した結果ではないかと思われる。



更に、検定を行った結果下記3つの項目に関しては有意差が認められた。これらに関しては、特に家族支援の効果が強く現れており、つまりこの項目が低く現れる層には、家族支援が有効と言えるのではないかと思われる。



## 欄外ケース紹介 2. 家族関係の改善が本人の自立に影響を与えたケース

A.Fさん(女性、初回来所時23歳)

- ・学習院女子大学国際関係学科を卒業したが、就職が出来ずひきこもり、「面接が苦手」との主訴で初来所。
- ・通所で1年以上継続し、日中の生活リズムは整ったが、大きな変化は無し。
- ・短期合宿型プログラム参加を機に家族面談を実施。今までの経過や本人の様子を共有した。
- ・その後長期合宿型プログラムに移行するにあたり、両親は月に1度の家族会にも参加。
- ・また母自身が、本人の特性などの理解を深める意味もあり、K2が実施するママコーチ養成講座に参加。座学や各事業所での実習を終えたあとは、本人とも適度な距離感を持ち関わる事が出来るようになってきた。「目から鱗なことばかりで、自分の子どもに対して客観的になるのは難しいけれど、出来ることに焦点を当ててそこを生かすようにしていきたい」との言葉も見られた。
- ・また本人も生活の基盤を共同生活や就労の場所に移すことで、週末や息抜きとして実家に外泊し、以前に比べると家族関係が改善。本人らしく、毎日を送ることが出来るようになった。
- ・現在、子育て支援事業所で職業訓練を受けており、2017年4月から同事業所の契約社員として就職が内定している。

## 第5章 総括

### 5-1 データ分析考察

#### ■データ分析から見えたこと

- ・ 支援前後（before-after 分析）での改善傾向は全般的に明らかであったが、項目によってその幅には差異があった。同内容の項目においても、クラウド（第三者評価）とアンケートの間で差異があり、データ抽出の方法と項目の選定には再検討が必要だと思われる。
- ・ 外出範囲や機会、他者との会話の頻度など、支援機関につながり、「ひきこもりの解消」ができた事による、「具体的な行動・生活」の改善については特に顕著に見られた。
- ・ 一方で、対人関係や将来への不安は継続している傾向があり、状況や生活の改善が直ちに本人の不安解消にはつながらない事が判った。

#### ■家族支援の有効性について

- ・ 有意差が認められた項目については、いずれも家族関係の好転、本人の活動に対する家族の理解度が高まった事による本人の精神的負担の軽減などが、本人の能動的・積極的な行動、改善に繋がったと考えられる。
- ・ 家族面談が効果的である層のイメージとして、「対人関係への不安」が強く、日常的に「落ち込みやすい」事により、「新しい事への挑戦」に中々踏み出せない若者、が見えてきた。これらに関しては、現場的な実感もある。

### 5-2 本評価振り返りと課題

#### ■本評価の振り返り

- ・ 最初から最後まで、伴走者の存在は必要不可欠であった
- ・ どういうデータを集めるのか、どうやって集めるのか、集めたデータで何を把握、確認するのか、といった設計部分においては、なるべく時間をかけて、丁寧につくる必要がある。またこの部分においては、専門的な知識が必要だった。
- ・ 何度も、「社会インパクト」とは何か、「社会インパクト評価」とはどういう事かという疑問に立ち返った。評価の過程で学びや気付きもあり、活用の価値も見出したが、社会的企業に普及していく為には、もう少しわかりやすい動機づけや明確なイメージが必要ではないか。

#### ■課題

- ・ 評価の設計書であるロジックモデルやインパクトマップ作成の段階で、抽出するデータや分析内容などを落とし込みきれておらず、調査が進んだ段階での苦労が大きかった。

- ・ ⇒With-without の設定や、クラウドとアンケートの設問項目の整合性など。また、クラウド、アンケート共に初回来所時を遡っての調査となった為、before-after の差が出るのはある程度当然であると言える。
- ・ 今回、家族支援の with-without を「家族面談の有無」で確認した為、K2 が行っている「家族支援」全般に対する検証は行なっておらず、またいずれも各ケース毎に、繋がった経緯や困難度、障害の有無などが異なる為、抽出したデータや分析の検討が不十分であると考えられる。
- ・ ⇒そもそも家族の理解があるケースが、面談・支援に繋がっている可能性もある。

### 5-3 今後について

#### ■事業へのフィードバック

- ・ 抽出・蓄積していくデータの再検討が出来た。特にクラウドシステム内の項目に関しては、既に修正が行われており、今回の調査と同内容の調査を定期的に行う事が可能。ただし追加修正が必要な項目もある
- ・ ロジックモデルやアンケート作成の過程の中で、現場の感覚でしか無かったものを言語化、可視化することができた
- ・ プログラムの効果と共に、家族への面談や勉強会などへの参加促しが、本人の自立への後押しになる事の実感が持てた。また、家族支援が特に有効な層がある程度見えたことにより、現場のアセスメントの判断材料が増えた

#### ■ステイクホルダーに対して

- ・ 家族、支援者、自治体、行政に対して、今回の調査結果や評価内容をまとめ、改めて、若者支援において本人や家族がたどるプロセスや、それに合わせて K2 が実施する支援内容や期待される効果を伝える機会を設けたいと考えている
- ・ ⇒冊子の作成、ステイクホルダーMT の実施

#### ■今後の展望

- ・ 今回、最後に行った家族主体のロジックモデル作成の為のワークショップの中で、最終インパクトとして「家族の社会化」というキーワードが出た。一言で説明するのは難しい言葉だが、非常に納得のある、家族の目指すべき姿であるとスタッフそれぞれが感じており、改めてこの部分に焦点をあてて、評価を実施したい。

## 5-4 全体まとめ

今回の調査そのものについて「若者支援における家族支援の有効性」の社会インパクトを十分に表す事が出来たかといえ、答えは不十分であるだろう。

しかし、今回の調査研究事業の目的を再度振り返り、「社会インパクト評価の実践による人材育成・組織力強化」である事に立ち返れば、この調査事業を通じて多くの組織内での学びや実践が行われ、知見が広がった事は大きな成果だったといえる。

特に調査を行う際に作成した「ロジックモデル」や「インパクトマップ」の作成は事業に関わるスタッフが多数参加した事からチームワーク形成の機会となり、また出来上がった資料は実際の現場で活用できるものになった。

調査を中心的に動いたスタッフは時間的な負担もさることながら、「社会インパクト調査とは何ぞや？」という問いに常に考える日々で、単に手を動かすだけではない労力も大きかったように思う。公的な定義はあるとしても、それを私たちの現場にいかにか活用するのが大きな課題であり、それを考えるととても大事な経験をさせていただいたと感じている。

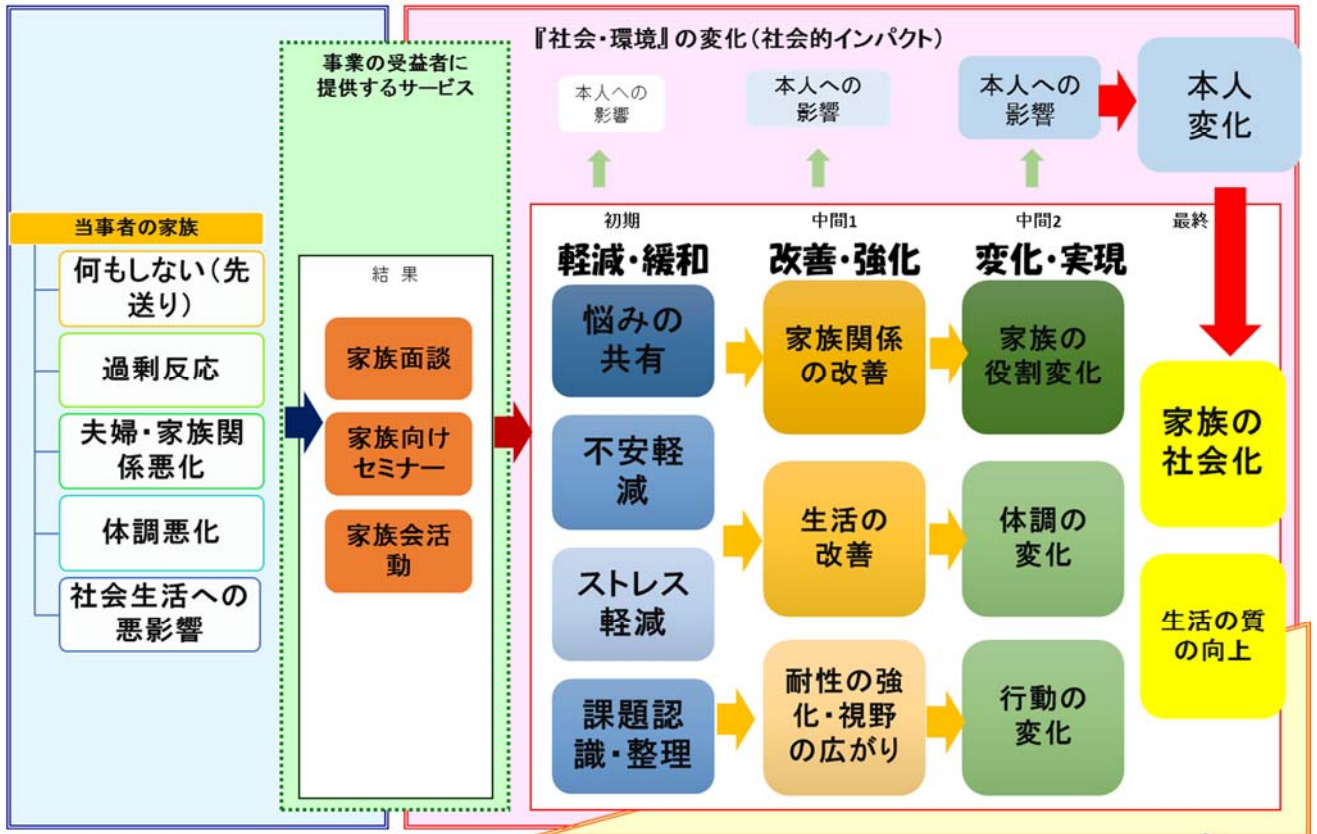
社会的な事業を行う団体において、その効果をどのように表し、出資者などが納得のできる資料を作る事ができるかはどの組織においても大きなテーマだろう。

これまでも様々な試みをしてきたが、専門家の力を借りる事が前提であろうと考えてきた。事業を終えても専門家の協力の必要性は感じているが、少なくとも専門家との話し合いや役割分担をするための基礎知識は身についたのではないかと思っている。

この事業で得た知識や経験を元に、今後私たちの事業の内部検証や対外的な発信など大いに活用していきたい。

最後に、私どもに伴走しここまで導いてくださったスーパーバイザーの玉村先生、新日本監査法人の皆様、そしてこのような機会を頂きました内閣府の皆様へ深く御礼申し上げたい。

## ロジックモデル(家族主体)



### 当事者の家族を対象にしたグループインタビューで見えたこと

K2 家族の会の理事（当事者家族）へのインタビューを行った所、家族の支援につながる前の状態として、本人への対応は「見ないふり（先送り）」と「過剰反応」の二分化される事が判った。同時に体調や生活、家族関係の悪化があり、本人、家族共に行き詰まっている状態があった。

支援につながる事でも、そうした家族内の閉塞感からの解放があり、悩みや不安、ストレスの軽減を経て、徐々に夫婦や家族関係、生活そのものが改善されていく。その過程の中で家族の本人への対応が変化していくことが本人の自立意識・行動に影響を及ぼしていくと言える。K2の家族支援は、家族が他の当事者に関わる機会をつくる事で、多面的な視点を持ってもらう事も目的としており、グループインタビュー後のスタッフ間によるワークショップの中で、家族が家族だけで完結しない、家族それぞれが社会の中で生き生きと過ごす事のできる、「家族の社会化」こそがK2が目指す最終インパクトであるという結論を得た。

## 利用者アンケート

### はじめに

- ・ このアンケート調査は、K2 グループの今後の支援プログラムを改善するために、利用者の現状を把握することを目的としています。回答は初回来所時（登録時）と現在の状況を伺う構成になっています。初回来所時を振り返っていただくとともに、現在の状況についてもお答えください。
- ・ なお、調査の結果は全て統計的に処理しますので、個々の回答者がどのように回答したのかは明らかになることはありません。
- ・ 質問事項や選択肢について不明な点があれば、K2 事務局（045-750-0039）、またはご登録頂いている K2 の事業所にお問い合わせください。
- ・ 全ての質問に回答した後、11 月 18 日（金）までに配布元の事業所までご提出ください。
- ・ ご協力いただきますよう、よろしくお願い申し上げます。

1. あなたが、悩みを相談する人はどなたですか。該当する方全てにチェックしてください。

（初回来所時）

- 父親、 母親、 兄弟、 おじ、 おば、 祖父、 祖母  
友人、 友人（ネット上）、 知人、 支援者、 医者、 専門家、 その他

（現在）

- 父親、 母親、 兄弟、 おじ、 おば、 祖父、 祖母  
友人、 友人（ネット上）、 知人、 支援者、 医者、 専門家、 その他

2. 対人関係について不安はありますか。該当する番号に○をしてください。

(初回来所時)					
1	2	3	4	5	9
全くない	あまりない	どちらでもない	ある程度あ る	とてもある	わからない
(現在)					
1	2	3	4	5	9
全くない	あまりない	どちらでもない	ある程度あ る	とてもある	わからない

3. 働くことに不安はありますか。該当するものに○をしてください。

(初回来所時)					
1	2	3	4	5	9
全くない	あまりない	どちらでもない	ある程度あ る	とてもある	わからない
(現在)					
1	2	3	4	5	9
全くない	あまりない	どちらでもない	ある程度あ る	とてもある	わからない

4. 外出する頻度はどの程度ありますか。該当するものに○をしてください。

(初回来所時)					
1	2	3	4	5	9
ほとんど外出 しない	週1回未 満	週1回程 度	週に2~3 回程度	ほぼ毎日	わからない
(現在)					
1	2	3	4	5	9
ほとんど外出 しない	週1回未 満	週1回程 度	週に2~3 回程度	ほぼ毎日	わからない

5. 日常生活において、外出範囲は広がったと思いますか。該当するものに○をしてください。

(初回来所時)					
1	2	3	4	5	9
全くそう思わ ない	そう思わない	どちらでもない	そう思う	とてもそう思 う	わからない
(現在)					
1	2	3	4	5	9
全くそう思わ ない	そう思わない	どちらでもない	そう思う	とてもそう思 う	わからない



6. 日常生活は楽しいと思いますか。該当するものに○をしてください。

(初回来所時)					
1	2	3	4	5	9
全くそう思わな い	そう思わない	どちらでもない	そう思う	とてもそう思 う	わからない
(現在)					
1	2	3	4	5	9
全くそう思わな い	そう思わない	どちらでもない	そう思う	とてもそう思 う	わからない

7. 心を許せる友人が欲しいと思いますか。該当するものに○をしてください。

(初回来所時)					
1	2	3	4	5	9
全くそう思わな い	そう思わな い	どちらでもない	そう思う	とてもそう思 う	わからない
(現在)					
1	2	3	4	5	9
全くそう思わな い	そう思わな い	どちらでもない	そう思う	とてもそう思 う	わからない

8.行きたいところや、やりたいこと、欲しいものなどがありますか。該当するものに○をしてください。

(初回来所時)					
1	2	3	4	5	9
全くない	あまりない	どちらでもない	ある程度あ る	とてもある	わからない
(現在)					
1	2	3	4	5	9
全くない	あまりない	どちらでもない	ある程度あ る	とてもある	わからない

9.あなたは身だしなみ・おしゃれに関心がありますか。該当するものに○をしてください。

(初回来所時)					
1	2	3	4	5	9
全くない	あまりない	どちらでもない	ある程度あ る	とてもある	わからない
(現在)					
1	2	3	4	5	9
全くない	あまりない	どちらでもない	ある程度あ る	とてもある	わからない

10. 支援者や周りの人のアドバイスに対して前向きに受け入れようと思いますか。該当するものに○をしてください。

(初回来所時)					
1	2	3	4	5	9
全くそう思わ ない	そう思わ ない	どちらでも ない	そう思 う	とてもそう 思 う	わ か ら な い
(現在)					
1	2	3	4	5	9
全くそう思わ ない	そう思わ ない	どちらでも ない	そう思 う	とてもそう 思 う	わ か ら な い

11. 新しいことに挑戦したいと思いますか。該当するものに○をしてください。

(初回来所時)					
1	2	3	4	5	9
全くそう思わ ない	そう思わ ない	どちらでも ない	そう思 う	とてもそう 思 う	わ か ら な い
(現在)					
1	2	3	4	5	9
全くそう思わ ない	そう思わ ない	どちらでも ない	そう思 う	とてもそう 思 う	わ か ら な い

12. 日常で落ち込むことがありますか。該当するものに○をしてください。

(初回来所時)					
1	2	3	4	5	9
全くない	あまりない	どちらでもない	ある程度あ る	とてもある	わからない
(現在)					
1	2	3	4	5	9
全くない	あまりない	どちらでもない	ある程度あ る	とてもある	わからない

13. 自分のことが好きですか。該当するものに○をしてください。

(初回来所時)					
1	2	3	4	5	9
全くそう思わ ない	そう思わない	どちらでもない	そう思う	とてもそう思 う	わからない
(現在)					
1	2	3	4	5	9
全くそう思わ ない	そう思わない	どちらでもない	そう思う	とてもそう思 う	わからない

14.今の自分の得意・不得意を理解していると思いますか。該当するものに○をしてください。

(初回来所時)					
1	2	3	4	5	9
全くそう思わ ない	そう思わ ない	どちらでもない	そう思 う	とてもそう思 う	わからない
(現在)					
1	2	3	4	5	9
全くそう思わ ない	そう思わ ない	どちらでもない	そう思 う	とてもそう思 う	わからない

15.自分が就きたい仕事についてのイメージはありますか。該当するものに○をしてください。

(初回来所時)					
1	2	3	4	5	9
全くない	あまりない	どちらでもない	ある程度あ る	とてもある	わからない
(現在)					
1	2	3	4	5	9
全くない	あまりない	どちらでもない	ある程度あ る	とてもある	わからない

問 15 (現在) において、「4 ある程度ある」または「5 とてもある」と選択した方は、問 16 及び問 17 に回答してください。それ以外の方は問 18 に進んでください。

16.問 15（現在）において、「4 ある程度ある」または「5 とてもある」と選択した方のみ伺います。自分が就きたい仕事に向けて必要なことを理解していると思いますか。該当するものに○をしてください。

(初回来所時)					
1	2	3	4	5	9
全くそう思わな い	そう思わな い	どちらでもない	そう思う	とてもそう思 う	わからない
(現在)					
1	2	3	4	5	9
全くそう思わな い	そう思わな い	どちらでもない	そう思う	とてもそう思 う	わからない

17.問 15（現在）において、「4 ある程度ある」または「5 とてもある」と選択した方のみ伺います。自分が就きたい仕事に向けて行動していますか。該当するものに○をしてください。

(初回来所時)					
1	2	3	4	5	9
全くしていない	あまりしてい ない	どちらでもない	ある程度して いる	とてもしてい る	わからない
(現在)					
1	2	3	4	5	9
全くしていない	あまりしてい ない	どちらでもない	ある程度して いる	とてもしてい る	わからない

18. 家族はあなたのことを理解していると思いますか。該当するものに○をしてください。

(初回来所時)					
1	2	3	4	5	9
全くそう思わな い	そう思わない	どちらでもない	そう思う	とてもそう思 う	わからない
(現在)					
1	2	3	4	5	9
全くそう思わな い	そう思わない	どちらでもない	そう思う	とてもそう思 う	わからない

19. あなたは家族に支援されていると思いますか。該当するものに○をしてください。

(初回来所時)					
1	2	3	4	5	9
全くそう思わな い	そう思わな い	どちらでもない	そう思う	とてもそう思 う	わからない
(現在)					
1	2	3	4	5	9
全くそう思わな い	そう思わな い	どちらでもない	そう思う	とてもそう思 う	わからない

20. ご両親とあなたの関係は、良いと思いますか。該当するものに○をしてください。

(初回来所時)					
1	2	3	4	5	9
全くそう思わな	そう思わな	どちらでもない	そう思う	とてもそう思	わからない
い	い			う	
(現在)					
1	2	3	4	5	9
全くそう思わな	そう思わな	どちらでもない	そう思う	とてもそう思	わからない
い	い			う	

21. あなたは生活に満足していますか。該当するものに○をしてください。

(初回来所時)					
1	2	3	4	5	9
全くそう思わな	そう思わな	どちらでもな	そう思う	とてもそう思	わからない
い	い	い		う	
(現在)					
1	2	3	4	5	9
全くそう思わな	そう思わな	どちらでもな	そう思う	とてもそう思	わからない
い	い	い		う	

22. K2の支援プログラムを利用中、他の団体・機関などの類似の支援を受けていましたか。該当するものに○をしてください。

1. 受けておりある程度効果があった
2. 受けていたが、その効果はあまり感じられなかった
3. 受けていなかった



23. 問 1～問 21 で、初回来所時と現在で変化があった場合、その変化は、K2 の支援を受けたことがきっかけだと思いますか？

1. 全くそう思わない

2. そう思わない

3. どちらでもない

4. そう思う

5. とてもそう思う

9. わからない

アンケートは以上です。ご協力ありがとうございました。